原子力産業新聞

発行所
日本原子力産業会議
東京都港区芝田村町1の1(東興ビル三階)
電話(59)6981—4
振替東京 5895
購読料
定価一部 20円
一年分前金 200円

原子力使節団全日程終る

団長ら電力班と西独・イタリアへ

十月二十一日パリに到着した原子力産業使節団一行は、その後日本大使館、仏原子力庁、電力庁を訪問、マルクール原子力発電所、サクレー原子力研究所などの見学を終えて二十八日ロンドンに飛び、日本大使館、英原子力公社、中央電力公社などを訪問し、十一月一日にはさる十月十七日運転を開始したコールダー・ホール原子力発電所を、二日にはハーウエル原子力研究所を見学した。これで羽田出発以来五十日にわたる長途の日程を終えて、四日ロンドンを出発帰国の途につくが、その後は各自自由行動をとって見学、調査などを行う。

大屋団長、松根常任理事、電力班の木田川東電副社長、長尾中電副社長、機械工業班の大西日立副社長及び島村、柴田両顧問、阪本、藤田両幹事の一行は、ロンドン出発後ストックホルムを経て西独に飛び、ボンでシュトラウス原子力相と会談し、スイスを経てイタリアに入り、同国でも原子力開発利用の実際を見学するが、電力班の井上中電社長は一行より一足先に同じコースの見学を行っている。その他の団員もそれぞれ有意義な見学を計画しているが、十一月下旬には特別な一部を除いて、大部分が東京で再び顔を合せることになる模様である。

明年の日米合同大会は五月十三日

会議・公開講演などに一週間

米フォーラムからの希望事項到達

来年東京で開催される日米両フォーラムの合同大会について、その後着々と準備を進めていた日本原子力産業会議では、最近米国側から五月十三日開会を希望して来たのでこれを容れ、再確認を求めて照会中である。なお米国側ではアジア、アフリカ諸国の民間代表の参加も希望しており、このため産業会議では十一月六日正午から同会議室に準備委員委嘱者の参集を求めて会合を開き、同委員会を発足せしめて具体的運営方法につき検討することとなった。

日本原子力産業会議からの申入れには、開催の日時を四月初旬と期待していたが、米国ではあたかもこの月は決算総会の開かれる時期であるために、各産業会社の幹部はいずれもその準備に忙殺されるので、これを終ってからにしてもらいたいと希望している。かつ会議が五月十三日から始まれば前会長シスラー氏、新会長イドル氏も共に出席できる予定であるといって来た。

産業会議ではこの希望について種々検討していたが、日本側でも何等支障のないことが明かになったのでこれを承諾し、この旨を申し送って再確認を求めることとなったものである。

米国からの来日者は同伴の夫人らを含めて約五十名が予定されているが、電力会社、原子炉製造業者及び部品製造業者、燃料体の製造処理業者、化学反応・食品保存・産業利用及び研究用にアイソトープを使用している会社など、原子力に関する業務に携っている会社や団体の代表者達で、それぞれ特殊な分野で今まで行ったこと、今後の見通しなどについて討論する計画のようである。

滞在は二週間とし、そのうち一週間を会議、公開講演などにあて、残りを国内観光に費して二十七日離日の予定である。日程の詳細については今後打合せの上万全を期することになっているが、日本側の講演については、①日本のエネルギー事情②日本の電力事情③アイソトープの利用状況④東洋各国のエネルギー事情などについて希望して来ており、費用については旅費、宿泊料は先方持ち、会議費用はシカゴ大会の例にならって会費徴収により支弁するよう申入れて来た。

各国からの民間代表も出席

アジア、アフリカ諸国に招待状

米国側の希望によれば、大会には日米関係者ばかりでなくアジア諸国及びアフリカ諸国からも民間代表者を招待したい意向のようである。米国側ではフィリピン、ニュージーランド、オーストラリア等に招待状を発する予定であるから日本側でその他の諸国を招待するようにと望んでいるから、最初予定したものよりも、かなり大がかりな国際会議が予想されるにいたった。

準備委員会を設置

使節団帰日後実行委員会

日米フォーラム合同大会がいよいよ具体化し、開会期日も明年五月十三日と決定を見、米国側の希望も判明したので、日本原子力産業会議ではこれが運営に万全を期するため「日米フォーラム合同大会に関する準備委員会」を設置し、十一月六日正午から、産業会議会議室に第一回会合を開催することになった。

準備委員には関係諸官庁、諸団体の実際面を担当する人々を選考して委嘱状を発送したが、第一回会合には前記諸氏の外産業会議から橋本常任理事、福田、柴田両参与、仲矢事務局次長、早川事業、小林企画調査部長、宇佐美渉外室長が出席し、大会決定の経過、米側の希望事項などを説明し、準備事項の実施方針について協議するはずである。なお最有力な産業人をもって構成する大会実行委員会は、原子力産業使節団の帰京をまって正式に発足することとなっている。

ロ事務局長

東京商は十二月十日頃

来年東京で開かれる日米両フォーラムの合同会議は、五月十三日からと決定したが、その準備事務打合せのため来日する米フォーラム事務局長チャールス・ロビンス氏の東京着は十二月十日ごろと予定されている。

同氏は十一月二十六日から一週間ブラッセルで行われるベルギー産業会議に招待されており、さらにイギリス、スイス、フランス、イタリアでそれぞれフォーラム会員に会い、イタリアからの帰途日本に立ち寄ることとなっているものである。同氏の来日によって会議の日程はもちろん、その内容、ホテル関係、観光場所など一切の事務打合せが行われるものと見られている。

委員委嘱者

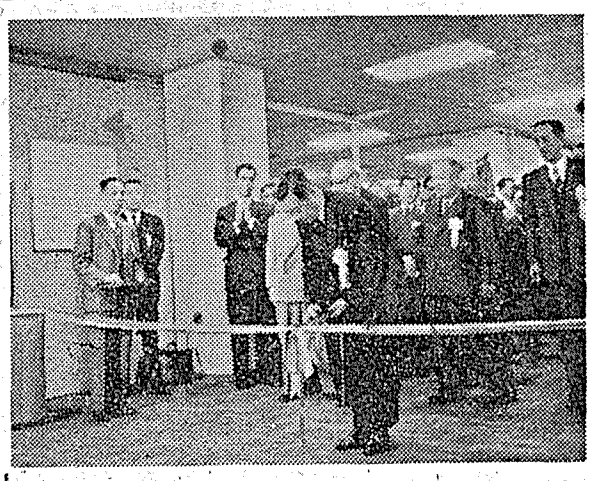
準備委員を委嘱して、第一回会合への招待状を発送した諸氏は次のとおりである。

◇官庁　▽科学技術庁原子力局政策課長島村武久、原子力調査課長荒木外喜三、アイソトープ課長鈴木猪一▽外務省国際協力局第三課長松井佐七郎▽通産省大臣官房物資調整課長石井秀平

◇原子力機関　▽日本原子力研究所企画課長阿部滋思▽原子燃料公社理事畠島陸

◇産業界　▽三菱原子動力委員会幹事長木村久男▽東京原子力産業懇談会島史朗▽日本原子力事業会▽第一原子力産業グループ事務局次長三宅勝重▽住友原子力委員会事務局長大野正己▽電源開発原子力室長川村泰治▽東京電力社長室次長竹内良市、秘書課島村同▽関西電力秘書役斎藤義雄▽中部電力火力部次長前田一雄。

◇団体　▽日本商工会議所事務局長高城元▽経済団体連合会事務局次長花村仁八郎▽国際商工会議所事務総長佐島敬愛▽大阪商工会議所事務理事里井達三良▽名古屋商工会議所専務理事高坂正雄▽電気事業連合会事務局長中川哲郎▽日本放射性同位元素協会事務局主事笠井康一。



藤岡原子力委員開場のテープ切る（アイソトープ展にて）

明年度の原子力関係予算

原子力委・要求最終案を決定

十月二十六日の原子力委員会定例会は午後二時から明年度原子力関係予算要求額の検討を行い、最終案を決定した。

この総額は百二十一億四千五百八十七万五千円と一億七千六百八十万円を増額しているが、これは原子燃料公社の重要性に鑑みて一億五千万円、関係各省分で二千六百八十万円を増額したためである。

特許審査資料の整備要望書提出

衆・参両院など二十機関に

菅日本原子力産業会議会長から

日本原子力産業会議法制委員会では、既報のとおり原子力に関する外国からの特許出願について、その重要性に注目し、第三回委員会で「原子力に関する特許出願の審査資料についての要望」を作成し管会長に提出して、検討のうえ関係方面に進言するよう希望していたが、右の要望書は十月十五日付で、関係二十機関の長に提出されたことが、二十二日の理事会で報告された。

この要望書は本紙九月二十日号にその全文を掲載して報道したとおり、原子力に関する特許出願のあった発明について公正な審査を行うためには、国内の資料を各機関が統一的な方針のもとに整備して設けることが必要であるとするものである。

なお要望書の提出先は次のとおりである。

益谷衆議院議長▽松野参議院議長▽重光外務大臣▽一万田大蔵大臣▽渡瀬文部大臣▽小林厚生大臣▽河野農林大臣▽石橋通商産業大臣▽正力科学技術庁長官▽商工経済企画庁長官▽有田衆議院科学技術振興特別委員長▽神田同商工委員長▽松沢参議院商工委員長▽中曽根衆参両院原子力合同委員長▽自民党水田政調会長▽社会党伊藤政調会長▽金森国会図書館長▽井上特許庁長官▽原子燃料公社高橋理事長。

懇談会で対策検討

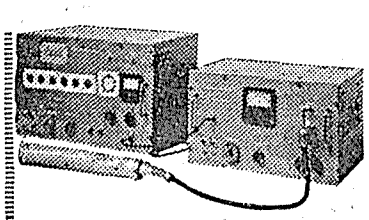
日本原子力産業会議法制委員会では、原子力に関する特許出願の審査資料についての要望を関係各方面に提出後の情報、今後の対策などについて意見を交換するため、十月二十六日午後二時から産業会議会長室に、文部省の妹尾大学学術局学術情報室長、農林省の林田農林水産技術会議総務課長、通産省からは石井大臣官房物資調整、藤田鉱工業局無機化学、三谷公益事業局調査の三課長、経企庁の越知計画部計画第二課長、科学技術庁の荒木原子力局原子力調査課長工業技術院の梅沢調整部事業課長、特許庁からは伊藤審査第一部調整課長及び小菅資料館長、国会図書館の大島科学技術課長、原子力研究所の阿部企画調査部企画課長を招き法制委員会側から岩田委員長、金沢、鈴木両運営委員らが出席して懇談会を開いた。

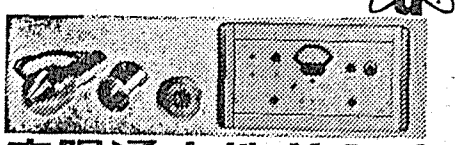
まず岩田委員長のあいさつがあり金沢委員の司会で、特許庁の伊藤課長から原子力関係の特許申請状況とその処理について、小菅資料館長と国会図書館の大島課長からそれぞれ所管資料の整備状況と今後の計画などについて説明を聞きながら懇談した。

席上、熱心な質問があり、また情報を交換して腹蔵なく意見をかわし、特許関係の資料の整備、今後の情報交換について協力体制を布くための討議を行った。

最後に産業会議側からこの要望書の線にそって進みたいから御協力願うとの要請があり、同四時半散会した。

北海道炭砿汽船
本店　社長 萩原吉太郎
東京都中央区日本橋室町二の一の一

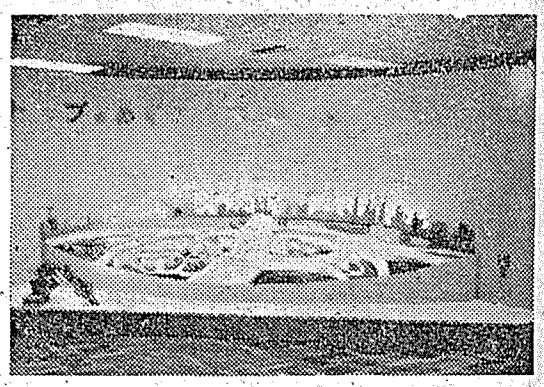
東芝の放射線測定器
Toshiba
G.M.カウンター
シンチレーションカウンター
シンチロメーター
電離槽型サーベイメーター
G.M.管型サーベイメーター
ポケット・モニター
ポケットチェンバ
フイルムバッジ線量計
X線量計（"γ"メーター）
医療用深部線量計

東芝製
シンチレーションカウンター
東芝医療電気株式会社
本社　東京都中央区銀座7丁目5 電話 (57) 6171 (5) 5571 (4)
支店・営業所　東京・大阪・福岡・仙台・名古屋・広島・札幌・金沢・高松・松本・静岡・鹿児島・松江・小倉・岡山・前橋・京都・神戸・秋田・下関

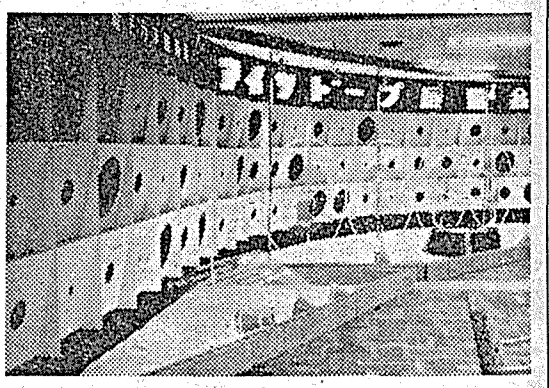
放射線測定器
専門輸入商社
米国 DETECTOLAB社製
医療用スペクトロメーター

東陽通商株式会社
社長　奥村喜和男
本社　東京都中央区日本橋本石町1—2
電話日本橋 (24) 代表 5276番
出張所　大阪市西区靭下通1—10富屋ビル
電話土佐堀 (44) 0902番

無機及理論化学全書
J. W. MELLOR
Comprehensive Treatise on Inorganic and Theoretical Chemistry
Suppl. Volume II, Part I.
F. Cl. Br. I. At.
近刊・予約受付中　¥ 9,350
東京・日本橋都内出張所〜丸ビル一階　丸善　電話(27)2321, 2351　振替東京5番

秋の中京に咲く世紀の花

原子力平和利用「アイソトープ展覧会」開かる





名古屋の「アイソトープ展覧会」は、日本原子力産業会議、日本放射性同位元素協会、毎日新聞社主催で、十一月一日から名古屋駅前名鉄百貨店五階六百余坪の会場で開かれた。一日は午前十時三十分から開会式が開かれ、主催者のあいさつ、来賓の祝辞があったあと藤岡原子力委員の手で開幕のテープが切られた。つづいて会場を招待者に披露してティパーティーが行われ、午後は待ちかまえた一般観衆がどっと会場に押し入り、七時の閉店までに二万五千余名を数えた。好調な滑り出しに加えて三、四日連休日は超満員、つづいて毎日午前中は学校からの見学で東京以上の賑わいが予想され、名古屋の話題はアイソトープ展にさらわれたかたち。会期は十一月十一日までの十一日間である。（写真は展覧会入口の飾りつけ）

菅会長の午食会

各界の名士五十余名招待

菅日本原子力産業会議会長は「アイソトープ展」開会にあたり、名古屋訪問を機に十一月一日午後零時三十分から、ホテル・ニューナゴヤに神野名古屋商工会議所会頭、井上中部電力社長、勝沼名大学長、清水名工大学長ら各方面の名士、会員会社代表者及び業、藤岡、岡野氏ら東京からの開会式出席者など合計五十余名を招き午食会を催した。

写真は店内の飾りつけ

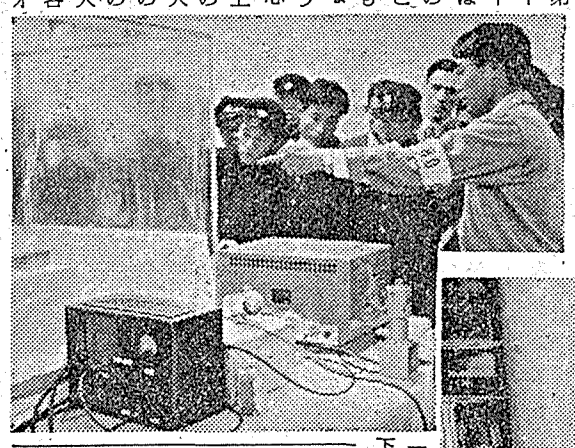
名鉄百貨店はアイソトープ展一色に彩られている。入口メーンの大ショーウインドにかざられた見事な装飾。各階の通路の頭上、エスカレーターの入口には色とりどりにあんどんが掲げられている。一階から二階への主階段を上りきったところにマニプレーターが設けられまずいきとうの人気を一手にひきうけた感じ。オペレーターは六人、みんな地元のお嬢さん、それもほとんどが新しく二時間程教育を受けた人ばかり。それでも結構手さばきよくマッチもすれば字も巧い。

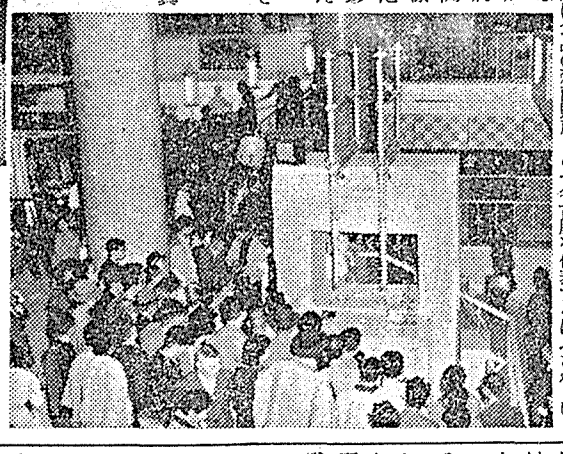
エスカレーターに運ばれるままに五階の会場に着く。とたんにパッと目もまぶしく一面のパノラマが展開する。未来の原子力都市、原子炉の模様化。壁面にそって歴史的な人と業績の写真がつづく。真空放電の実験、鉱物の標本など。以上がいわばイントロダクション。そこを終ると大きめに「映写室」と書かれた二つの映画会場にいやでも入る仕組み。そこで約十五分漫画入りのわかりやすい映画でアイソトープとは何であるか、どうして作られるか、この催しへ入るための基礎知識が平易に与えられる。

暗い映画会場を出るといきなり広々した会場の明るさにとまどいする。ずっと見渡すとまず原理的な説明部門。各種原子炉の模型がまず目をひく。やはり黒山のように人だかりするのは銀の放射性化の実験。小型小判まがいの銀板が数分で放射性化すると人波がどっとどよめく。ぽつんと一つ重水を入れたビンがおかれている。「これは本当に重水ですか」という質問がなかなか多い。

菅会長の開会式あいさつ

放射線のとらえ方。ウイルソンの霧箱、三台のローリッツェン検電器には熱心な学生達の顔、顔。各種のカウンター、メーター類に群がる目も何かを喰めようとする光に輝いている。説明者も実験者も





【写真・上は銀の放射線化の実験・下はここでも大人気の魔法の手】

それだけに難しい原理を何とか判ろうとする学究的な顔がパネルを見つめ実験者の声に耳をかたむける。今後繊維工業への新しい改革が次々と行われる一つの曙光。厚み計、高分子化合物への応用、漂砂の移動調査、管内流速の測定、これらを熱心にみる人はかなり専門的知識をもった人が多い。それだけに質問も専門的で、説明者も大汗というところ。

開会式に三百名参列

藤岡原子力委員テープを切る

「アイソトープ展覧会」の開会式は十一月一日午前十時三十分、名古屋地方の産業界、官界、学界、アメリカ領事館代表など約三百名を招き展覧会場入口近くに設けられた式場で行われた。まず梅原毎日新聞中部本社総務部長の開会宣言が行われ、早川日本原子力産業会議事業部長の司会で主催者代表として菅日本原子力産業会議会長、茅日本放射性同位元素協会会長、梅島毎日新聞中部本社代表のあいさつ、来賓の科学技術庁長官正力国務大臣代理佐々木原子力局長、藤岡原子力委員、岡野日本原子力研究所監事、石橋通産大臣代理中野大臣官房総務課長、桑原愛知県知事、小林名古屋市長、神野名古屋商工会議所会頭の祝辞がのべられた。

菅産業会議会長は「この一年わが国の官民一致の原子力体制がようやく整い、アイソトープも国産の途がひらけるようになった。この催しを契機として名古屋地方の関心が高まり、わが国をリードするような研究の成果が生まれることを期待したい。各方面の協力によって充実したこの展覧会はアイソトープ展の決定版と思われる」とのべ、藤岡原子力委員は「アイソトープの過去の歴史もそうであったが、学問の世界ではある時期に一つの学問が爆発的に盛んになることがある。日本の原子力平和利用はまさにそういう時期にあると思われ、ここ数年内に非常に大きな成果があがることが期待される」また岡野原子力研究所監事は「わが国のアイソトープ輸入額は年に一億円にも達し世界一であるというが、われわれの努力で数年内にびた一文も輸入しないですむようにしたい」とのべ、最後に神野名古屋商工会議所会頭から「本日の盛大な開会式を見てあたかもわが国原子力関係の中心がすべてここに移動されたような感激を覚える」と結んだ。

つづいて十一時三十分藤岡原子力委員が会場入口にはられた紅白のテープにハサミを入れ、拍手のうちに十一日間の幕が開けられた。来賓者は久田名古屋工業試験所長の説明で会場をめぐりティーパーティーにのぞんだ。

平易な解説講演

連日会場で開催して好評

連日会場で開催して好評講演と映画の会場では連日次のとおり平易な解説講演が行われる。

◇一日「アイソトープとは」日本学術会議会長茅誠司◇二日「原子力の世界情勢」原子力委員藤岡由夫◇三日「原子灰の処理について」名古屋工試梶崎千代利◇四日「食品栄養におけるアイソトープの利用」名大教授吉田浮◇五日「原子力発電について」中部電力火力部次長前田一雄、「食物の病気とアイソトープ」名大教授平井篤造◇六日「原子力物理学の歴史」名大教授坂田昌一◇七日「アイソトープの触媒への応用化学」名大教授森田徳義◇八日「アイソトープと生活」名古屋工試所長久田太郎◇九日「放射能と人生」名大教授小穴進也◇十日「未定」名大教授関戸弥太郎◇十一日「植物の放射能汚染と放射能疫水汚染除去」名大助教授谷田沢道彦。

てんてこ舞いの大わらわ。東京の倍、四十名に増員したこれら学生職者はもう立派に自信をもって説明に当っている。映画の原理説明どこの説明者は最も好評。

広い会場を終ると曲りくねった壁面にさそわれて障害と安全取扱に入る。ここは所狭くかざられた各種の材料や標本がぎっしり飾りたてられている。ミリキュリーレベルの放射化学実験室、更衣洗浴室このあたり一品残らず見たり理解するのは容易でない。

さていよいよアイソトープ利用の現状。アイソトープの樹の前に立つ。医学部門。ここでもアザやカンの治療に熱心な質問が浴びせられる。「弟がバセドー氏病で二十年も首がはれているのですが、こういうのも治るでしょうか」こうなると熱心という以上に真剣そのものだ。大阪市立大の子宮ガンの診断、名大医学部の各種ラジオアイソトープグラフなど新しい出品。

農業部門。卵の形成の説明、ガンマー室、真珠の形成、光合成、ネズミの生理それに食品の殺菌貯蔵、ここはなかなかに話題がある。それなりに質問も各種各様殺菌された食品は物珍らしく押えてみたり、透き通してみたり。

工業部門。放射線写真としての利用（探傷器や古代美術の鑑定）から名工試出品の静電除去の実験装置へ。これは最も地元名古屋を代表するにふさわしい。あとはUSIS、イギリス大使館提供の写真、丸善の書籍、資料の展示。

最後に講演と映画の会場、一日には茅先生が、二日には藤岡先生がというように連日講演があり、約一時間の「原子力平和利用シリーズ」の映画がくり返し上映されている。六百余坪にきっしり盛られた新しい知識に魅せられ、やや気疲れした人々は何かを考えながら黙々と帰ってゆく。

展覧会あれこれ

☆マジックハンドの実演を一部始終見ていたある田舎風のおばあさん、やおらオペレーター嬢に「何故洗濯をやってみせんのか？　これは電気洗濯機と違うか？」

☆重水のところで「飲んだ水の何%が尿中に排泄されるか」というパネルがある。この説明をきいたある中年の御婦人「なら、これを飲むと寝小便にきくのですか？」

☆同例に属するが、農業への利用のところを見た若い淑女に、「よくおわかりですか」とたずねると「はあよくわかりました。アイソトープを鶏にやると大きな卵が生れるんですね！」

☆銀の放射性化の実験が終った後、「何か御質問は？」というとすかさず四十位の田舎風紳士、カウンターを指して「この機械はいくら位ですか？」――この話を食事の時に提供すると、サーベーメーターのところでもガンの治療でも、マニプレーターでも「これはいくらですか？」が必ずとび出すという。どうもここの人達は何もかも値段で評価するらしい。

大阪のRI展

新構想で来年開催

東京、名古屋に続いて開催予定であった大阪のRI展は、関西の進んだ研究利用の成果を十分に織り込んだ地方色を発揮するにはなお日時を要することと、かたがた会場などの関係で、今次の計画は一応中止することとなった。

明年の開催については、改めて想を練り、東京、名古屋における経験を十分に活用し、加えて関西地方の特長を多数盛り込み、内容規模において現下のRI展の決定版たらしめたいとのことである。

TEN
原子力平和利用
工業用計器完成
β線厚み計
γ線厚み計
各種
科研製
ポケツト
線量計
荷電器
（今般科研と弊社間にて総販売店契約締結）
販売業務開始
各種放射能測定装置
神戸工業株式會社
本社　神戸市兵庫区和田山通1－5
支社　東京都中央区八重洲3－7、営業所　札幌・名古屋・福岡

原子力問題調査会　御申込は資料室
技術資料　第二集　電三田(45)2529へ
機械製作工業におけるラジオアイソトープの利用
原子力問題調査会編集
旬刊　原子力内外情報
1・11・21日発行（年間）12.000円
科学新興社　発行　丸ノ内丸ビル4階　電(20)3333

米国Detectron社製品
All New!
Detectron DS-235
Acc. SCM-12A
SCINTILLATRON
シンチレーションカウンター
ショックスアンドバルブデテクター
ポラチエーションデテクター
パイプデテクター etc.
◎米国JORDAN社製品
◎独乙SARTORIUS社製品
◎米国ULTRA－VIOLET社製品
実験研究室用一般理化学器械製作販売
ヤマト科学器械株式会社
東京都中央区日本橋本町2丁目9番地
電話日本橋(24)5231代表

第七回理事会開く

日本原子力産業会議

日本原子力産業会議の第七回理事会は、十月二十二日午後二時、東京丸の内日本工業クラブ二階会議室に開かれた。

まず菅会長から

①主要業務報告

(イ) 業務日誌

(ロ) 委員会報告

(ハ) 行事報告

(ニ) 使節団連絡状況

(ホ) 会員状況

②日米フォーラム折衝報告と米フォーラム側発表

③法制委員会よりの要望書について措置について

③原子炉国産促進方策に関する要望書について

を議題として審議したが、いずれも異議なく決定。

ついで理事、日本原子力研究所監事岡野保次郎氏から茨城県東海村の同研究所建設工事の進捗状況に関する説明を聞いて同三時すぎ散会した。

◇理事新任

電源開発株式会社副総裁　岸田幸雄

◇理事退任

藤井崇治氏が電源開発株式会社の副総裁を辞任し、代って岸田氏が就任したためのものである。

④関西及び中部における連絡会の件について報告ののち協議事項

①役員異動に関する件

②委員長会議二提案に関する件について同日決定した人事は次のとおりであるが、これは藤井氏が電源開発株式会社の副総裁を辞任し、代って岸田氏が就任したためのものである。

三系列別原子力グループと懇談

ワクにこもれば開発不可能

日本原子力産業会議第四回経済委

全国の系列別原子力グループに呼びかけて、連絡懇談会を設置しようと準備中の日本原子力産業会議では、これに先だつて経済委員会に三グループを招待して懇談した。

日本原子力産業会議第四回経済委員会は、十月二十四日午後二時から産業会議会議室で開かれ

▽三菱原子動力委員会　木村久男氏（三菱電機電力技術部長兼原子力技術部長）前沢芳一氏（三菱電機営業部技師）

▽東京原子力産業懇談会　駒井健一郎氏（日立製作所取締役）斎藤辰雄氏（昭和電工取締役）豊田恭三氏（丸紅飯田原子力部長）勘史朗氏（日立製作所原子力課長）

▽日本原子力事業会　前崎繁矢氏（第一物産取締役）森川辰雄氏（東芝電気主任研究員）

三グループ八氏を招き、川北経済委員長ほか委員、専門委員、産業会議から橋本常任理事、部長、室長、係員ら出席、川北委員長司会のもとに意見の交換を行った。

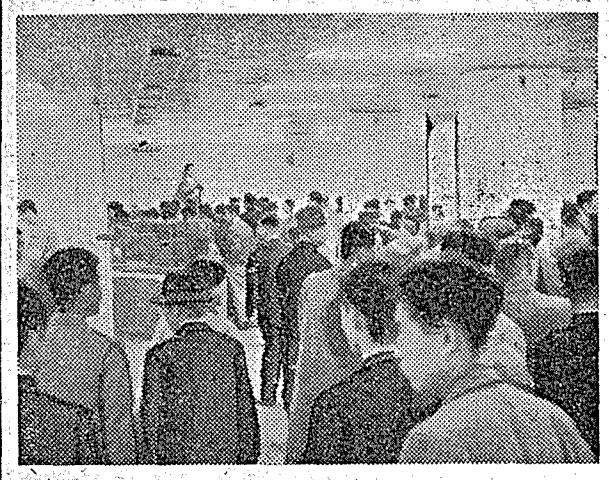
まず三菱原子動力委員会の木村氏から同委員会の構成、事業などについて紹介したのち「発足後一ヵ年を経過したが、その間輸入原子炉CP－5に関連する工事の一部を当グループが引受け、原子炉関係の仕事を工場で実地に行うことができるようになった。当委員会は資本的に結びついたものではなく、同好会であり、外部との連絡をできるだけ緊密にして、三菱グループとして固まらないようにしたいと思っている」と述べ、質疑応答ののち安西委員から「原子力産業グループは強力な財閥の復活になりはしないか。グループの結束は原子力工業の発展の障害となることはないか。この意味で当経済委員会は各産業グループの融和懇親をはかるのも一つの使命と思う」との発言があった。

これに対して木村氏から「各系列別グループが、自己のワクの中にのみ閉じこもって他からの援助を受けないとするならば、原子力開発は永久に不可能であろう」と述べたことは注目された。

ついで東京原子力産業懇談会の駒井氏から同懇談会を紹介し「目的達成のためには当面外国技術の導入が不可欠であることを認め、その受入れ及び急速な消化態勢整備に努力し、終局の目標達成のための協力を旨としている。現在主として情報の交換、研究調査の共同実施などを行つており、また産業会議、東京電力との会合を持っている」と説明、斎藤氏からもアイソトープの利用に関する発言があった。

次に日本原子力事業会の前崎氏が同事業会を紹介したのち、「発足はさる六月であるので、現在の活動は海外事情の調査に重点をおいている。原子力事業は国家的規模で行うべきである」と述べ、森川氏は「原子力の利用は発電と放射線に分れるが、わが国は技術的に立遅れており、また燃料がないので、国際間の協力、協定の問題があり、また研究と製造を平行して行わねばならぬ点が注目される」と発言。船舶用電子炉の建造、原子力発電のコスト、原子力関係技術者の不足、原子炉の立地条件などについて質疑応答があった。

懇談会後橋本常任理事から、来春東京で開かれる日米両フォーラムの合同会議について報告ののち、「この会議で経済関係の問題をも討議するよう考えてほしい。このため準備委員会を開いて相談したいと考えている」と発言、同四時終了、引続いて会長室で専門委員会を開き、同委員会の運営方針について協議した。



開会日のアイソトープ展会場

原子力国際機関会議終る

加瀬代表機関規約に調印

日本・準備委員地域代表に二位で当選

原子力国際機関規約採択会議は十月二十三日同規約を満場一致で可決した。ついで準備委員の地域代表国六ヵ国を選出したが、日本は七十票を得て第二位で当選した。調印式は二十六日行われたが、わが国からは加瀬国連大使が政府を代表してこれに調印した。

満場一致規約採択

原子力国際機関規約採択会議は、発足当時八十一ヵ国参加のもとに開会されたが、十月三日スーダンが招請に応じて参加したので八十二ヵ国となり、一般討議ののち全体委員会に切り換え逐条審議を続けていたものであった。

二十三日の総会は午前十時半（日本時間午後十一時半）から国連本部総会議場で開かれ、参加八十二ヵ国代表全員が出席、全文二十三カ条、付則一を満場一致で可決した。ムニス議長が採択を宣し「これこそ真に歴史的な瞬間である」と述べるや、議場はたちまち拍手のあらしに包まれた。

規約採択後総会は午後零時十五分準備委員の地域代表選挙に入り、同四十五分開票の結果、アルゼンチン七十二票、日本七十票、エジプト六十六票、ベルー四十九票、インドネシア四十七票、パキスタン四十六票の六ヵ国がそれぞれ必要な過半数以上をとって当選し、議長から宣言された。なおこの投票は六ヵ国連記の秘密投票方式によって行われた。

日本当選の意義

当選した六ヵ国は発起国、即ち米英、仏、ソ、カナダ、インド、ベルギー、ブラジル、ポルトガル、オーストラリア、南ア連邦、チェコ十二ヵ国と共に十八ヵ国委員会として、二十六日調印式後直ちに発足、ウィーンを本部とする原子力国際機関設置並びに第一回総会を目指し準備活動を開始したが、機関の成立後は自動的に機関の理事国となれるという有力な地位を得たものである。

原子力国際機関は国連と密接な連絡のもとに、加盟国に対する特殊核分裂物質、設備、施設、役務の提供によって援助する一方、平和利用にのみ使用されることの保障措置や安全基準を設け、必要な情報交換、科学者交換の促進を任務とするもので、すでに米国からは調印式席上、さきに発表した二万㌧のウラン二三五のうち五千㌧を直ちに機関に供出することを明かにし、なお一九六〇年七月一日までに他の国の供出するウラン二三五と全く同じ量を同じ条件で機関に供出すると、大統領代理としてストローズ原子力委員長から発表し、一方ソ連も五千㌧の核物質を提供すると発表しており、原子力燃料の国際的なプール機関として原子力の開発に大きく期待されているだけに、貸出される燃料物質に対する管理、監視の視察権を送り込む権限を持っている理事会に平和利用一本のわが国が被援助国の立場から代表の一員として入ることは、今後の活動に極めて意義深いものがあることを思わせる。

初総会は来年夏

調印式は二十六日午前十時四十五分から開かれ七十ヵ国が調印して幕を閉じた。日本政府は二十六日の閣議で同規約の承認を決定したので、加瀬大使はイスラエル代表に続き三十七番目に調印した。なお準備委員会の委員長にはカルロス・アルフレド・ベルナルデス・ブラジル代表、副委員長にはパウエル・ウインクラー・チェコ代表が選ばれ、一九五三年十二月アイゼンハワー米大統領の提案以来満三年にして漸く規約が成立し、米、英、ソ、仏、カナダのうち三国を含む十八ヵ国が批准書を米国政府に寄託したとき効力を発生し第一回総会は来年度ウィーンに開かれる予定である。

秋の皇室園遊会

原子力関係の五氏も招待

天皇、皇后両陛下の御主催で十一月六日午後一時から皇居広庭で行われる戦後復活第四回目の秋の園遊会に、ことし初めて原子力関係者が招待される。

宮内庁の発表によれば、この度の内外招待者は二千四百三十三名で、このうち各官庁の推薦によって一般国民の中から各界の四百九十九名が、その夫人四百四十八名と共に招待されることとなったもので、原子力関係者は次の五氏である。

原子力委員勝岡宙夫氏、同有沢広巳氏、日本原子力研究所理事長安川第五郎氏、原子燃料公社理事長商橋幸三郎氏、日本原子力産業会議会長菅礼之助氏。

積極的協力の方針

アジア原子力センター懇談会

日本原子力産業会議では、アジア原子力センター設置に伴なう日本側の協力について、関係メーカーを初め産業界と意見の交換を行いたい旨の原子力局の申入れで、十月二十五日午後一時半から東京有楽町の電力懇話会で懇談会を開いた。

このアジア原子力センターの建設並びに運営は、各国が可能な範囲で行わねばならぬ点が注目される」と発言。船舶用電子炉の建造、原子力発電のコスト、原子力関係技術者の不足、原子炉の立地条件などについて質疑応答があった。

懇談会後橋本常任理事から、来春東京で開かれる日米両フォーラムの合同会議について報告ののち、

米国アイソトープ利用報告書

日本原子力産業会議で複製頒布

日本原子力産業会議では、米国アイソトープ課の資料によったもので、一九四六年以来今日までの米国内のアイソトープ産業利用の全リストである。

フォーラムで作成した米国アイソトープ産業利用報告書を複製配布する。（下記広告欄参照）本報告書はアメリカ原子力委員会の援助協力によってなされるものであるところから、日本側の意向として発表する基礎資料の整備を行う必要から開かれたもので、当日は原子力局から佐々木局長、堀助成課長のほか荒木原子力調査課長以下関係官が出席し懇談の結果、同センターに対する協力は日本の勉強となり有益な経験となって将来の原子力開発に大きな貢献をもたらすこと、各国から優秀な科学者、技術者が集まるので、これに要員を送ることは人的つながりができて友好協力を期待できることなどから、産業界としても望ましいとする意見が強かった。

その結果現在のところ異論もなくはっきりしない点もあるが、日本としては積極的に協力する方針から①器材の提供②人員の派遣について広く産業界の意向を取りまとめ、これを政府側に伝達することを決め、産業会議から関係各社に文書による回答を求めることになり、直ちにその手続きをとつて十一月五日その第一次報告がまとまったので原子力局に提出した。

「原子力国内事情」編集連絡会

第六回「原子力国内事情」編集連絡会は同誌第六号発行を機会に、十月二十三日午後一時半から日本原子力産業会議会議室で開催、官界、学界、産業界の関係機関を網羅した編集連絡会メンバー五十五氏が出席した。

まず原子力局、日本学術会議、原子力研究所、原子燃料公社、原子力産業会議、原子力金属懇話会、第一原子力産業グループ等の内容説明、次号計画の紹介が行われた。

つづいて研究説明会に入り原子力産業会議の森一久氏から「動力協定について」当日配布の動力協定草案（米案）をもとに説明が行われ、引きつづき原子力局政策課田宮茂文技官から「昭和卅二年度原子力予算について」詳細な解説があった。最後に英国大使館の好意による最新版の「イギリスにおける原子力の進歩」「コールダー・ホール」の二巻の映画を上映して午後五時閉会した。

貸付信託　予想配当率●年7分3厘　1口1万円●元金保証

安田信託銀行

本店　東京都中央区八重洲1丁目3番地

（電）千代田（27）3851●3861　振替口座 東京4840

（案内書贈呈）

新刊外国雑誌

Automatic (Bd. I Heft 1: Sept. 1956)	M	¥5,000
Automatisme (Vol. I: 1956)	M	4,680
Industrie atsmiques (Vol. I: Sept. 1956)	10 nos.	3,900
Electrical Energy (Vol. I: Sept. 1956)	M	2,270
Information and Control (Vol. I: Apr. 1957)	Q	4,470
International Journal of Applied Radiation and Isotopes (Vol. I: July 1956)	Q	7,560
International Journal of Physics and Chemistry of Solids (3 vols. per year)	M	22,680
Journal of Fluid Mechanics (Vol. I: 1956)	6 nos.	6,930

1957年度雑誌予約申込受付中

株式会社 紀伊國屋書店　東京都新宿区角筈1丁目826番地 Tel. (37) 0131～5　振替東京125575　大阪市北区梅田（梅田ビル2階）

米国アイソトープ利用報告書

Industrial Utilization of Radio Isotopes

1946—1956

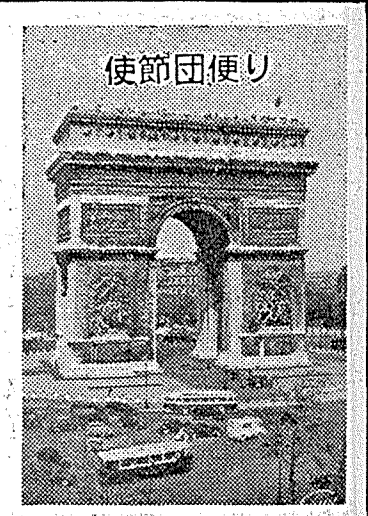
内容　本報告書はアメリカ原子力委員会の民間利用部アイソトープ課の資料に基づいてアメリカ原子力産業会議が編集したもので，アイソトープの配分開始の1946年から1956年までの10年間に工業的に利用した業種別会社名，アイソトープ核種，使用目的，使用年度の全リストである．

頁数　A4判（菊倍判）　133頁

複製予約申込受付中　実費頒価 500円　送料 32円

申込先　日本原子力産業会議事業部　東京都港区芝田村町1-1　TEL: (59) 6981

使節団便り



○

昨夕モントリオールで一行同じ飛行機に乗り、オタワに参りました。駅頭書記官以下大使館員総出の出迎えを受けましたが、かかることは今度の旅行で初めての経験です（十月十八日—大屋敬）

○

一昨日二十一日無事パリに着きました。八時すぎパリ着といっても五時間ほど時差がありますので、機上ではほとんど休む暇もなく皆様お疲れのようでしたが、二十二日は午前中ATEN、三時からEDF、二十三、二十四日は全員ではありませんが発電所、アイソトープ関係などの見学を致します。ATENでは時間が二時間ほどしかないことが残念でしたが、フランス側がこれだけ集まるのは珍しいという程の盛会でした。（二十三日—藤田信正）

○

二十日予定の日程通りオタワ発大西洋を横断してパリに到着仕候。あたかも鳩山首相一行モスクワより帰国の途中当地に立寄るに日を同じうし、小林中、松根、井上中部の三君と同道ホテルに訪問敬意を表し遽き候。

カナダの見学は非常に有益にて、インドは天然ウラン重水型（CP—5型に相似のものにて天然またはスライトリー・エンリッチド・ウランを燃料とするもの）を注文技師三十名をチョーク・リバーに稽古のため滞在致させ居り候。大いに日本のため参考に相成候。カナダ、フランス両大使館とも使節団に大いにサービス、感謝致し居り候。

当地はサクレーの予定見学のほか今日まで意見の交換のみにてやや不満に候。電報の御指示により両日中にゲロン氏と会見のはずに候。コールダー・ホール見学はヒントン卿の御尽力により短時日の滞在に最大限の効果を期待し得るやに存じ居り候。（二十四日—パリ・ローヤル・モンソーホテルにて大屋敬）

○

パリでは原子力産業新聞など有難く頂戴いたしました。簡単な私の通信を収録して頂いているのを拝見して、連絡不十分なことを痛感した次第です。ここロンドンでは予定通り二十八名の方が集まられなかなか忙しい日程ですが、最後の活動に入ります。原子力局の村田さんにもお会いしましたが、今日調査団と御一緒にロンドンを立たれるので、ゆっくりお話する暇もありませんでした。（二十九日—藤田信正）

日本原子力産業会議 十月の活動

事業経過

◇一日▽フランス原子力庁総合計画局長兼物理化学部長ジュール・ゲロン氏来日◇二日▽第二十八回常任理事会◇三日▽ジュール・ゲロン氏によるセミナー第一日（冶金）◇四日▽ジュール・ゲロン氏セミナー第二日（化学）◇五日▽ジュール・ゲロン氏セミナー第三日（動力炉）▽第五回原子力月例懇談会をかねてジュール・ゲロン氏原子力講演会◇八日▽ジュール・ゲロン氏セミナー第四日（動力炉）◇九日▽第二十九回常任理事会▽原動専第三回機械グループ研究会◇十日▽第一回常設委員会委員長会議▽アイソトープ展覧会出品打合せ会議◇十二日▽ジュール・ゲロン氏名古屋講演会▽ゲロン氏を囲み原子力に関する座談会◇十五日▽ジュール・ゲロン氏による第四回原子力関西月例懇談会◇十六日▽ジュール・ゲロン氏大阪セミナー（放射線化学）▽原動専第六回電気グループ研究会▽第一回日本アイソトープ会議論文編集委員会◇十九日▽第一回産業団体懇談会▽第三十回常任理事会◇ジュール・ゲロン氏離日◇二十三日▽第六回国内事情編集連絡会▽原動専第三回化学グループ研究会◇二十四日▽第四回経済委員会◇二十五日▽第六回総合エネルギー委員会▽アジア原子力センターについての懇談会▽原動専第七回遮蔽班研究会◇二十六日▽特許問題懇談会▽原動専第四回物理グループ研究会▽原動専第六回冶金グループ研究会◇二十七日▽放射性同位元素委員会第三回専門委員会◇三十日▽第三回原子動力セミナー第一日（午前）冶金、（午後）物理◇三十一日▽第三回原子動力セミナー第二日（午前）電気（午後）機械、経済

刊行資料

◇一日▽原子力海外事情第七号◇十五日▽原子力国内事情第六号▽原子力関係資料目録（速報）第十一号◇二十五日▽原子力資料第九号「放射線の生物学的影響」

委員会

◇放射性同位元素委員会　十月二十七日午後一時半から産業会議会長室に第三回専門委員会を開き、アイソトープ利用施設の研究会設置の件について審議し、この計画の立案推進のため幹事を設けることとなり伊藤岳郎氏（電気試験所）ら六名が選ばれた。

◇総合エネルギー委員会　十月二十五日午後一時半から産業会議室で大和田委員長以下委員、専門委員二十一氏が出席、次の通り開かれた。

同委員会は現在まで五回にわたってエネルギー供給源の全ぼうを把握するため、水力、風力、地熱、石炭、石油などについて専門家によるレクチャーを聞いてきたが、その一応の締めくくりとして、通産省大臣官房物資調整課長、石井秀平氏を招いて、産業合理化審議会エネルギー部会が作成に当っている"日本のエネルギー長期構給見通し（昭和三十一年から昭和五十年まで）"に関する説明をききこれを中心として討議を行った。ついで通産省公益事業局技術長小原周三氏（エカフェ地域諸国技術団員として欧米の電力状況を察）から欧米視察の報告をきいた。

原子灰

去る九月末、空気中の放射能の量が、たとえ一時的ではあるにせよ人体許容量をオーバーするという事態が起った。

これは"原爆博士"ともいうべき都築正男博士（日赤中央病院長）が警告を発したように、人類の将来にとって重大な問題である。一昨年のビキニ事件のさいには、いわゆる"放射能マグロ"で大騒ぎとなった。それがその後の研究で"大した問題ではなかった"とされたせいかも知れない。しかしこんどの問題は「空気」である。空気は吸わねば生きていられない。その空気が、生物にはいかに少量であろうとも"害あって益なき"放射能で、ひどく汚れているのだから、遺伝的悪影響さえあるものだけに、「人類将来の大問題」といって過言ではないだろう。

ところがこの問題について、厚生省のとった態度は実に不可解なものであった。

この事実を直視せよ……厚生省の空気汚染対策について……

厚生省には、専門学者による原爆被害対策協議会という諮問機関があり、環境衛生部会というこういう問題を審議する機関がある。ところが厚生省当局は測定を行った気象庁や立教大学に問合わせた結果"測定には誤差があり許容量は超えていない"と事実をゆがめて公表し、放射能を撒き散らすのだし、全国民の吸う空気を浄化することは、如何に厚生省が有能であっても出来る相談ではないからだ。

われわれは決して厚生省に出来ないことをせよとはいわない。しかし厚生省が本当に"国民の保健を守り、人類の将来を思う"役所であるならば、出来得る限りの力を動員してその学問的データーを集め、その真実を国民に、また世界に知らしめるべきだと思う。"国民に不安を与えては？"といった心配をするなら、かくし立てをするよりはむしろ事実を詳しく説明するのが本当であろう。

幸い、原子力委員会がこの問題に強い関心を抱いて、小委員会を作って、常時観測網を作り真実を公表することを決めてくれた。

放射能の問題は、いかに"平和利用"を進めようと、原子力とは切っても切れない問題である。放射能の禍から人類を守るのは、これからの人間にとっての大きな義務であろう。（愛川七郎）

都築博士の再三の勧告で環境衛生部会を開きはしたが、その発表のさいにも、この態度を固執していた。

この問題は、厚生省がいかなる行政手腕を打っていようともどうにもならない。何しろ、よその国が、あちらかまわず人工的データーを集めているのだ。

RIの医学利用（治療）

原子力五十問答 ⑫

大量遠隔照射療法

深在性のガンにも有効

【アイソトープによる「あざ」の治療】

【問】ガンの治療にコバルト療法が有効だといわれているが、どんな点か。

【答】ガンの治療にはコバルト六〇の大量遠隔照射という方法がとられている。これはエックス線の三百万ボルトのものに相当するというガンマ線が役立つのであるが物理的な諸性質が今までの放射線深部療法に見られぬ有利な点があって照射手技上多くの利点を有する。例えば表面の散乱線附加（特に後方散乱）が非常に少いので、皮膚の変化がわずかで、副作用も少い。軟部組織と骨などの硬組織との透過率が等しいので均等照射が可能であり、深部においても、入射線束の形に近く保たれ線量の減少が少いなどで、沢山の線量を深部の病巣に与えることとなり、深在性のガンにも有効である。従って皮膚、口腔、咽喉等のガンのみでなく、肺、腸、すい臓、前立線ガンなどにも比較的良好な成績がえられ、従来他の放射線療法で、ほとんど効果の薄かつた、胃、食道上顎等のガンにもある程度の良効果が期待できるようになった。現在、わが国では約四十ヵ所の病院で、コバルト六〇遠隔大量照射を行っている。

難治の肋・腹膜炎にも有効

金一九八を希釈して腔内に注射

【問】従来難治とされているガン性肋膜炎の治療にもRIが用いられるか。

【答】ガン性の肋膜炎や腹膜炎に対しては従来適当な治療法がなかったが、RIの出現以来、近年では放射性金一九八が非常に有効に使用されるようになった。金一九八は金箔を原子炉で放射性にしたものをすりつぶしてケラチンやプドウ糖液と共にコロイド状にしたものと、全粒子のものとがあるが肋・腹膜炎には、コロイド状のものが用いられている。半減期は二六九日でベータ線とガンマ線を放射する。

熱や酸に安定で、粒子が非常に小さいので胸水や腹水に平等に希釈されて好都合である。使用法は胸・腹腔共に生理的食塩水、5%プドウ糖液等で希釈して点滴注射するが、注射量は日本人では、胸腔内へは四〇—八〇ミリキュリー（平均六〇ミリキュリー）、腹腔内へは五〇—一〇〇ミリキュリー（平均七〇ミリキュリー）を一回に使用するのが適当のようである。副作用も高度のものはなく、二—四週間で反復治療を行う。効果は注射後数日でガン細胞の減少・消失、胸水、腹水の貯溜抑制・消失が認められる。放射性金は胸・腹水治療の他、ラジウム針やラドンシードの代用として、腫瘍に直接注射することも出来るし、婦人科方面では子宮ガンや卵巣ガンに直接または付属器に注射し、泌尿科では膀胱ガンの治療にも用いられ、白血病や真性赤血球増多症等には、静脈注射による治療法が行われている。

甲状腺疾患に著効

示すヨード一三一

【問】放射性ヨードは医学上どんな疾患の治療に最も有効か。

【答】放射性ヨードは、他のいかなる人体臓器に比しても甲状腺に数千倍の濃度で特異的に摂取される。それで甲状腺の機能が亢進する疾患である甲状腺機能亢進症（バセドー氏病）に放射性ヨードを投与すると正常甲状腺の更に数倍以上の高い摂取率を示し、投与したヨードの四〇—九九%が甲状腺に摂取される。そして甲状腺に摂取されなかった残余のヨードは他の臓器には、ほとんど摂取されることなしに大部分は尿中に排泄される。

そこで甲状腺機能亢進症の患者に、甲状腺の大きさ、甲状腺ヨード一三一摂取率、年齢等を考慮しながら三ないし十ミリキュリー位を経口投与しますと速かに著効を奏する。そして甲状腺に摂取される以外はほとんど全部尿中に排泄される。放射線ヨードの治療作用はほとんどがベータ線によるので副作用がはなはだ少く、投与量さえ適切に定めれば、われわれの二百例の経験から見ても八五%近い治癒率を挙げている。

なお放射性ヨードは悪性甲状腺腫という甲状腺のガンのようなものにも著効を奏することがある。

半数以上に素晴しい効果のあざ治療

【問】アイソトープで「あざ」が治るといわれているが、どんなものなのか。

【答】アイソトープから出る放射線を利用して治療するので、矢張り一種の放射線療法であるから売薬のように素人治療の出来るものではなく、またこれを行っている病院もまだそんなに沢山はない大都会の大きな病院だけであろう。

アイソトープ治療といっても色々の方法があり、従来ラジウムで行っていたのと同じ方法もあり、それにはコバルト六〇やストロンチウム九〇を一定の容器に封入したものが使用される。それ以外にアイソトープ独特の治療法があって、それは吸取紙のようなものにアイソトープを浸して乾したものをプラスチックで密封し、それをあざなどの患部に長時間貼り附けて治療する方法である。

それには燐三二のようなベータ線だけを放射するアイソトープが使用され、あざのような体の表面にあるものの治療に有効である。まだ二〇〇%が完全に治るとまで行かないが、相当によい効果があり半数以上では素晴しい治療効果の得られる方法である。この方法の特にすぐれている点は大人でも有効で、眼瞼のようなところでも眼に障害を及ぼすことなしに治療出来る点である。

原子力界待望の専門誌／◇2号配本中◇
原子エネルギー　日本語全訳版
ソヴエト科学アカデミー編
監修　科学研究所 浜田達二　電源開発立花昭　日大医博 藤信胤
B5　9ポ横　約160頁
定価 600（年間一時払3200円）
3号　11月中旬配本（年6刊）
新刊　応用化学　日本語飜訳版
ソヴエト科学アカデミー編
B5　9ポ横組　約130頁　定価 380円　年間 9,000円
毎月2回発行（限定版ニツキ本社ニ直接御申込下サイ）
詳細内容見本進呈　申込先　株式会社アトム社　東京神田小川町1の10　振替東京48410番　電（25）8656—9

海外のご旅行も—
日本航空はじめ世界の主要航空、汽船会社の代理店として、いろいろの手続を代行し、外貨の割当てから、旅券、査証の手続、海外のホテル予約など出発から帰国まで一切のお世話をするのが交通公社です
日本交通公社

トンボ印　石綿製品
N.A.K.
石綿製品一般
保温保冷工事
日本アスベスト
東京都中央区銀座西6丁目3番地1
電話 銀座（57）代表 5701（10）

原子力産業新聞

発行所
日本原子力産業会議
東京都港区芝田村町1の1(東電ビル三階)
電話 (59) 6981—4
振替東京 5895
購読料
定価一部 20円
一年分前金 200円

使節団相ついで帰る

無事に果した産業界の付託

今月末にはほとんど顔がそろう

さる九月十七日全産業界の衆望を担って羽田を飛び立った日本原子力産業使節団は、今月中にそのほとんどが帰国する。この間アメリカでは正式代表としてフォーラム大会の議事に出席、大屋団長が代表演説してわが国の原子力事情を紹介したり、明年の日米合同大会開催を取決めたりした。またカナダ、フランス、イギリスなど歴訪四ヵ国では友好を促進し、原子力施設を視察、調査すると共にわが国原子力産業開発上のキイポイントをなす諸問題について、その方針、経験、見通しなどについて懇談するなど多忙な日程を続けたが、十一月四日ロンドンでその使命を終え、それぞれ帰途は自由の行程をとっていたが、十一月二十三日には大屋団長らが羽田に到着するなど、近く大部分の帰国が予定されるにいたったものである。

この日帰国となったものである。二十三日帰国する人々は、大屋団長をはじめ松根常任理事、木川田東電副社長、長尾中国電力副社長大西日立製作所副社長(令嬢同伴)島村、柴田両顧問、阪本幹事の外この旅行中一行に従って終始旅程の遂行に協力した交通公社の吉田氏を加えた十氏で、二十日ローマを出発、香港を経由して帰国するものである。

なおその他の団員の帰国状況は次のとおりである。

◇二十二日までの帰国者

マ十月三十日沢井昭電大町工場長マ十一月六日岩永東洋レーヨン常務取締役マ七日大野三菱電機研究所長マ九日土光石川島重工社長、久良知清水建設取締役、藤永幹事マ十二日池田日本機械学会会長マ十八日丹羽三菱造船社長、井上中部電力社長◇二十一日久留島同和鉱業社長、瀬藤東芝専務取締役、計十一名。

◇二十四日後の帰国者

前田富士電機取締役 二十七日ローマ発、二十九日午後五時十五分羽田着。

角野八幡製鉄副社長 二十八日ローマ発、三十日午後十一時五十分羽田着。

小林開銀総裁、竹俣同理事、水野同主査 イスタンブール方面を視察したい希望もあるようで、まだ詳細はきまっていないが、今月末には帰国する予定である。

藤田幹事 月末帰国。

石川鹿島建設常務取締役 三十日ラングーンからマニラに飛び、羽田着は十二月一日午後四時三十分となっている。

栗西日産化学副社長 十二月三日帰着の予定。

久野新三菱重工技師長 再びアメリカに渡り、一月十五日帰京の予定。

片桐旭化成副社長 未定。

歓迎会は来月四日

理事会も同日東京会館で

さる九月十七日羽田を出発、欧米各国を訪問して使命を果した原子力産業使節団は、当日までにはそのほとんどが帰国するので、十二月四日正午から東京会館に、日本原子力産業会議主催の歓迎会が催される。

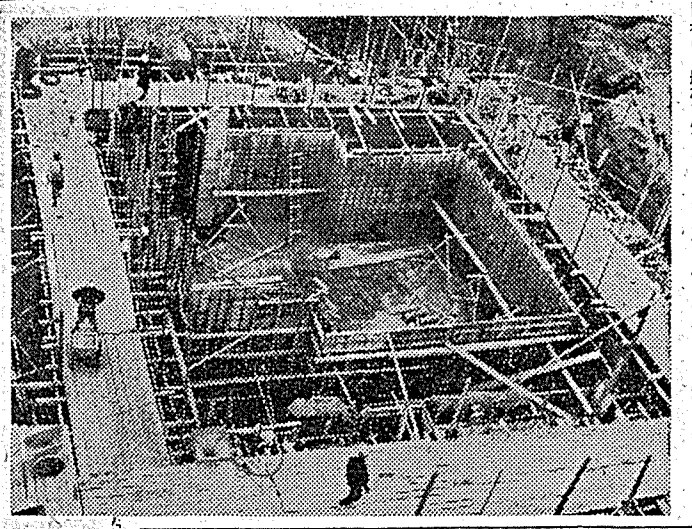
使節団の歴訪四ヵ国における使命達成と視察、調査の結果は、全産業界はもちろん、原子力に関心を持つ各界が、いずれも多大の期待をもっていただけに、一方ならぬ歓迎を受けることと思われている。

当日は在京使節団員のほか産業会議から菅会長以下の役員、全会員、委員、専門委員など、来賓として正力国務大臣、原子力局、原子力研究所、原子燃料公社、産業団体主宰者、各新聞放送機関の社長などの出席が予想されている。

なお十一月二十六日午後三時から産業会議で一般新聞記者との会見を、二十八日は同じく産業会議会議室において常任理事との懇談会を行う。

団長らは二十三日夜

一行十名日航機で羽田着



大屋団長を中心とする原子力産業使節団の一部、電力業界代表者などの一行十名(交通公社の吉田氏並びに大西氏令嬢を含む)は、十一月二十三日午後九時五十五分羽田着の日航機で帰国する。同使節団はさる十月二十一日パリに到着してから、仏英両国に所期の目的達成のため、日夜強行で活動を続けていたが、どうしても繰合せがつかずマルクールの見学ができなかった外は全日程を無事終了した。その後団員はそれぞれの専門部門の見学、視察を続けていたが西独、イタリアを経て帰国のコースをとる予定だった団長の一行はスエズ地帯の風雲が急を告げたため、一時遅延するのではないかと案ぜられたが、イスタンブール経由で、羽田出発以来六十八日目で帰国した。

懇談会で報告

三都市で開く

日本原子力産業会議の第六回月例懇談会は、十二月七日午後一時半から、原子力産業使節団の報告会として、東京丸の内の工業クラブ大会堂で行われる。

このほか大阪では十二日第五回関西原子力懇談会、名古屋では十四日第三回中部原子力懇談会を開いて報告することになっているが、当日はいずれも担当者の講演のほか映画の上映を予定し、目下それぞれ準備を進めている。

写真は東海村で工事中の日本原子力研究所ウォーターボイラー室地下部防水壁型枠

関西原子力懇談会近く発足

会員組織の強化図る

結成は会長出席の機会に

日本原子力産業会議では、かねて関西地方における会員との連絡方法について検討していたが、このほど準備打合会で別項のとおり規約案の決定を見たので、近く菅会長も出席して、関西原子力懇談会が結成される運びとなった。

この「日本原子力産業会議関西原子力懇談会」は、産業会議の事業の遂行を効果的ならしめることを目的とし、事務所を大阪商工会議所内におき、原子力産業に関する総合的な調査、知識の交流、意見の調整、会員相互の連絡提携などのほか、目的達成のために必要な一切の事業を行うものである。

日本原子力産業会議は元来全国的な組織であるが、関西地方の特殊事情に鑑みて、同地区に何らかの組織を必要とすることは発足間もなくからの懸案であった。五月二十一日ヒントン卿を迎えての初の関西大会が開かれた際に、菅会長が記者団に語った中にもこのことが言及されたのであったが、ただ東京に本部を、関西に支部をという考え方はで言るだけ避け、取りあえず大阪商工会議所に連絡事務を委嘱して来たのであった。

しかしその後の実情は、関西地方にあっても関西原子力懇談会と呼ぶ。

②本会は関西地方における日本原子力産業会議の会員をもって構成する。

③本会は日本原子力産業会議関西原子力懇談会規約案

①本会は日本原子力産業会議関西

関西原子力懇談会規約案

①本会は日本原子力産業会議関西原子力懇談会と呼ぶ。

②本会は関西地方における日本原子力産業会議の会員をもって構成する。

③本会は日本原子力産業会議がその目的達成のために行う事業を効果的ならしめ関西における原子力産業の発達に寄与することを目的とする。

④本会はその目的を達成するために左の事業を行う。

(1) 原子力産業に関する総合的な調査、知識の交流、意見の調整。

(2) 会員相互の連絡提携。

(3) その他本会の目的達成のために必要な一切の事項。

⑤本会に次の役員をおく。

(1) 委員長 一名

(2) 副委員長 若干名

(3) 委員 若干名

委員長は委員の互選による。副委員長は委員のうちより委員長がこれを委嘱する。

委員は日本原子力産業会議の関西在住の理事及び監事をもって充てる。ただし必要に応じ委員長は委員会の議を経て理事及び監事以外からも委員を委嘱することができる。

⑥本会に顧問及び参与若干名をおく。

顧問及び参与は委員会の議を経て委員長がこれを委嘱する。

⑦本会に幹事及び常任幹事若干名をおく。

幹事は委員長がこれを委嘱する常任幹事は幹事のうちより委員長がこれを委嘱する。

幹事及び常任幹事は本会の事務を処理する。

⑧本会の経費は日本原子力産業会議がこれを負担する。

⑨本会の事務所は大阪商工会議所内におく。

中部地方でも

別項のように、近く大阪地方の日本原子力産業会議会員によって関西原子力懇談会が結成されるが、名古屋地方の会員間にも、中部の連絡機関を設置しようとの計画があり、十二月十四日、原子力産業使節団の帰国報告会に菅会長らも同地に行くので、この機会に結成式を行うように準備を進めている。大体関西懇談会と同じ骨子によって実現するものと予想されるが、同地方の特殊な事情も考慮し、実情に即した幾分異った性格も盛られるものと見られている。

小委員を設く

合同大会準備委員会

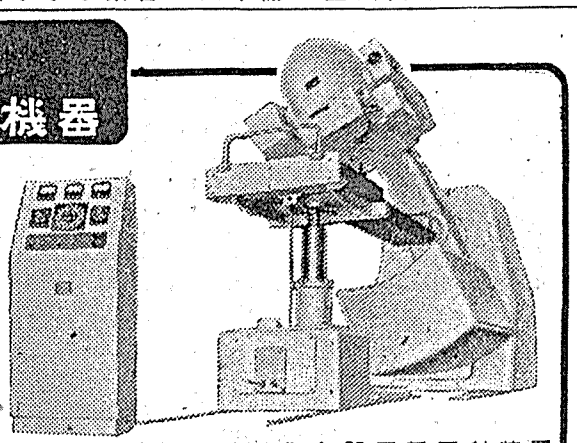
十一月六日正午から日本原子力産業会議会議室に、関係諸官庁、諸団体の実際面担当者を招待して開いた日米フォーラム合同大会準備委員会では、出席全員を準備委員に委嘱し、活動の敏活をはかるため、この中からさらに次の小委員を決定した。なお既報招待者のほかに東京商工会議所事務局長藤岡清則氏が出席、日本原子力事業会からは原子炉部会副部会長磯部整氏、関西電力からは斎藤氏に代って技術研究所長吉村俊男氏が出席した。なお第一回準備委員会は十一月十九日前回同様産業会議会議室で開いた。

◇小委員会 ▽原子力局荒木外務三▽外務省松井佐七郎▽日本原子力研究所阿部滋忠▽三菱原子動力委員会木村久男▽東京原子力産業懇談会島史朗▽日本原子力事業会磯部整▽第一原子力産業グループ三宅勝亜▽住友原子力委員会大野正巳▽電源開発川村泰治▽東京電力竹内良市▽国際商業会議所佐島敬愛▽福田、柴田両日本原子力産業会議参与。

臨時増刊発行

十一月二十三日付使節団関係のグラフを臨時増刊として発行、読者に配布します。

東亞合成化学
トリクレン ドライクリーニング用 金属洗浄用・一般溶剤
矢印製品

Toshiba
アイソトープ機器
照射装置 各種
工業用・医学診療用
農業用・理化学実験用
透過写真撮影装置 各種
放射線測定器 各種

コバルト60回転照射装置
(RI—102R型)
東芝医療電気株式会社

カーク化学工業全書
ENCYCLOPEDIA OF CHEMICAL TECHNOLOGY
Complete in 15 Volumes
Edited by R. E. Kirk and D. F. Othmer
19×27cm., each vol. approx. 960 p. (Interscience, N. Y.)
各巻定価 ¥12,000 全巻御購入特価 各巻 ¥10,000
近刊 Vol. 15: WAXES TO ZYMOSTEROL
既刊
Vol. 1. A to Anthrimides
2. Anthrone to Carbon-Arc
3. Carbon (cont.) to Chinchophen
4. Cineole to Dextrose
5. Dialysis to Explosions
6. Explosives to Furfural
7. Furnaces to Iolite
8. Ion Exchange to Metal Plating
9. Metal Surface Treatment
10. Pentacene to Polymethine Dyes
11. Polyols to Rutin
12. Sabadine to Stilbestrol
13. Stilbite to Thermochemistry
14. Thermodynamics to Waterproofing
東京・日本橋 都内出張所〜丸善ビル一階
丸善
Tel. (27) 2321, 2351, 2361
振替東京 5番

日本原子力産業会議の基礎確立さる

発足以来十ヵ月の業績を顧る

原子力産業使節団が、去る九月十七日に羽田を出発してから二ヵ月余りの旅程を終って、目下相次いで帰国しつつある。欧米諸国における原子力開発の実地見聞から得られたものを今後の事業面にいかに反映し、実現されるか、大いに期待するものであるが、長途のつかれを故国の青畳にしばしいやされるあいだ、われわれは目を転じて、原子力産業会議が発足してから今日にいたる十ヵ月間の主なる業績をたどってみよう。

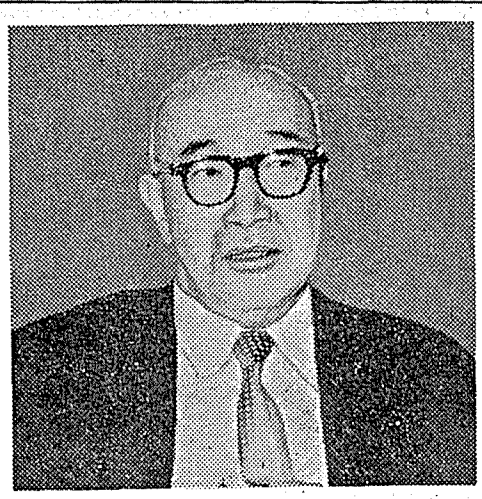
業界の総意を結集

三月原子力産業会議生る

まず、われわれが本年度において、最も注目しなければならないことは、原子力産業の政府施策がこれまでの準備段階を脱して、原子力基本法を枢軸としての、行政機構と研究開発機関を整備し、その本格化をはかったことである。すなわち、わが国の原子力政策を計画的に遂行し、原子力行政の民主的な運営をはかるために、原子力委員会を設置し、これと共に科学技術庁を設けて、原子力を含む科学技術の総合企画施行としての性格を明らかに、さらに、技術的な研究と実験をするために、原子力研究所を新らしい性格による日本原子力研究所に改組し、これと対応するウラン資源の開発機関として原子燃料公社の発足をみるなど一連の基本体制が確立されたことである。

かかる原子力開発の基本方針が明らかにされる情勢と相まって、産業界の総意により去る三月一日日本原子力産業会議は結成されたが、広く会員の参加を求めたところ、現在すでに約六百社の加入を数えるにいたった。この業種別は電力、瓦斯、石炭、石油、鉄鋼、金属、造船、造機、鉱業、海運、交通、紡績、化学工業、紙パルプ精糖、水産、建設、貿易、保険、金融、新聞放送など文字通り全産業の結集体ともいえるのであるが短期間にこのような強力な組織ができ上ったことは、産業界が、こぞって原子力の開発と平和利用に深い関心をもち、その重要性を認識したあらわれであるといえる。

すでに原子力の開発および平和利用がエネルギー生産だけのものではなく、産業技術の各分野にわたって、驚異すべき進展をみせており、この動きは遠からず産業の再編成にまで行きわたる可能性のあることは、われわれの常識になっているといってよい。しかし、原子力産業は、かかる関連産業の上になりたつ、いわば総合産業であり、その成果は同時にすべての産業技術に根本的な影響を与えるものであるから、とくに産業界の結びつきを緊密にして、その総合性を発揮しなければならない。



菅日本原子力産業会議会長

五つの常設委員会

あらゆる角度で調査研究

そこで、産業会議は当面の運営の方針を次の三点においた。

第一は調査研究機関としての常設委員会の活動であり、第二は海外先進諸国における原子力情勢の的確なる把握であり、第三は以上の活動を通じて平行的に行われる国内における普及啓発運動の展開である。

調査研究機関は各界の権威者、専門家を含めて、法制、経済、総合エネルギー、原子動力、放射性同位元素の五つの常設委員会に分け、原子力についての諸問題をあらゆる角度から調査研究し、その結果を広く産業界に供すると同時に、政府ならびに国会へ反映せしめようとするものである。

審査資料整備

外国からの特許対策

◇法制委員会　わが国の原子力開発利用を促進するために必要な関係法規、制度、組織などについて国内事情や先進国の実例などを参考にして調査研究を行うもので、今日までに特許、機密事項、動力協定および双務協定に関する問題などにつき順次研究を進めてきたが、とくに特許について、原子力関係の技術水準が先進諸国とのあいだにはなはだしい較差があるので、すでに常識とされ、何らの新規性を有しない技術知識も、わが国に出願すれば特許を付与される事態が懸念されるのを防止するために、国内において公知事実の文献、資料などの整備についての要望を関係各方面に申し入れた。

開発促進の影響検討

◇経済委員会　わが国における原子力開発について諸方策や、その手順あるいはわが国に開発利用が促進された暁には、いかなる影響を産業、経済、社会などに及ぼすかについて調査研究を行っている。

既存エネルギー源の需給と影響調査

◇総合エネルギー委員会　原子力のエネルギー利用に対しては電力石炭、石油、天然ガス、薪炭などの既存エネルギー源を個々にあるいは総合して、その供給力と将来の産業構造の関連を考慮し、その需要量などの調査研究を行い、それを通じて原子動力開発計画の諸問題を扱っている。

原子動力の調査研究とシンポジウム

◇原子動力委員会　発電用、船舶用、機関車用、航空機用などの原子炉について、国内事情を考慮しつつ、その技術的、経済的の諸問題についての調査研究を行い、これ等の資料について第一回原子動力シンポジウムを開催し、受講者百七十八名にのぼる成果をあげたまた、動力用原子炉の国産化促進に関して、会員である関係製造業者の要望によって、産業会議内に動力炉国産協議会をもち開発の具体策を考究することも予定されている。

成果収めた第一回RI会議

展覧会は東京と名古屋で七十万動員

◇放射性同位元素委員会　放射性同位元素が昭和二十五年に輸入されて以来医学、農業、工業など各分野への利用は年々盛んとなってきたが、先進国にくらべて相当のおくれがあるので、これが生産と利用の促進方策と、これに伴う危険防止の諸問題について調査研究を行っている。とくに昭和三十二年度に日本原子力研究所に設置を予定されているアイソトープセンターの構想に関して、その主要なる事業である放射性同位元素の生産ならびに利用と、商エネルギー放射線利用に関する研究とが、共存して設置の目的を十分に果しうるかについて、検討をかさねこの意見を関係方面に開陳した。さらに、本年八月にアイソトープの利用ならびに安全管理についての実験計画、応用技術およびその成果が、産業界ならびに学界の各領域に寄与した実績を公開し、技術の向上と知識の普及をはかることを趣旨とする第一回日本アイソトープ会議を企画し、工業、放射線化学、理学、医学、生物学、農学、安定同位元素など部門別による多角的な研究論文を広く募ったところ、百六十篇の応募があった。この論文内容の講演会を産経会館の国際ホールに催したほかに、アイソトープの利用とその安全管理などに関する機械、器具とか写真、図表、図書などの展示、実験によるアイソトープ展覧会を、東京では伊勢丹、名古屋では名鉄百貨店で催したが、東京は四十万人、名古屋は三十万人にのぼる観覧者があり、国民の原子力平和利用に対する関心の高さを示した。

フォックス博士

グッドマン博士

シスラー氏

ヒントン卿

ゲロン博士

海外の機関と提携

各国権威者の講演会も活発に

第二の海外先進諸国における原子力情勢の把握の点であるが、まず海外原子力研究機関との提携をはかり、すでにアメリカ原子力産業会議、全米商工会議所およびアメリカ原子力経済研究所には正式に会員として入会したが、さらにフランス原子力産業会議とも提携を持ち、アメリカ原子力委員会およびイギリス原子力公社からはそれぞれ常時情報の連絡と、資料の提供をうけて海外情勢の入手には万全の措置を講じている。

一方、発足以来原子力先進国から、その途の権威者、専門家をできるだけ多く招き、各地で講演会懇談会、座談会などを催し、広くその知識、技術、経験をとり入れる機会を設けるよう努力した。今日までに、

クラーク・グッドマン博士（アメリカ原子力委員会原子炉開発部長）

クリストファー・ヒントン卿（イギリス原子力公社産業部長）

ブルックヘヴン調査団一行十一名　団長マーヴイン・フォックス博士（ブルックヘヴン国立研究所原子炉部長）

ウオーカー・シスラー氏（アメリカ原子力産業会議会長）

ジュール・ゲロン博士（フランス原子力庁総合計画局長）

各氏の訪日を機会に、いずれも東京、名古屋、大阪において講演懇談、座談あるいはゼミナールを催したが、各国における原子力開発事情の解明と、わが国における原子力の開発過程に対する意見および助言については、かなりの成果があった。

四カ国に使節団派遣

来春東京で日米合同大会

また、わが国の原子力産業の開発を実施担当する産業人による海外視察であるが、これは電力、機械、造船、鉱業、鉄鋼、化学繊維建設、銀行など各産業部門にわたる経営者と技術者の最有力者二十九名をもって原子力産業使節団を組織し、九月十七日アメリカ、カナダ、フランス、イギリスに向け出発した。この視察は原子力に関する施設とか、開発政策の担当者、企業の責任者など開発推進の第一線の人々と懇談して、意見の交換を行い、有益なる助言をえたばかりでなく、アメリカ政府の原子力当局者との折衝により、動力協定の内容も機密事項を解除する意向が内定している模様がわかった。

とくに、アメリカ原子力産業会議に申し入れた、日米原子力産業会議の合同会議の開催、日本原子力産業会議の職員をアメリカ原子力産業会議に常駐させること、および原子力平和利用国際交流基金の設定について原則的に意見の一致をみたが、この使節団の派遣が各国において予想以上の歓迎をうけた記事が、日刊新聞にあらわれたことから考えても、極めて有意義であったことが裏付けられる。

定期刊行六種

普及啓発に努力

第三の原子力の開発利用についての普及啓発運動は、すでに述べた常設委員会の活動と、海外先進諸国における原子力情勢の把握を通じて、いくたの普及啓発に役立ったが、これと共に常時刊行物を発行して、会員および原子力関係者の研究と参考に寄与した。この刊行物は、世界各国の原子力に関する最新の政治、経済、時事、技術などの邦訳紹介をする「原子力海外事情」（月一回刊）と、そのうち、とくに関心の深いものとを原文のまま速報する「ニュース・フラッシュ」（月一回刊）と、原子力先進国の最新の文献の邦訳紹介および産業会議の常設委員会の成果を収録した「原子力資料」（月一二回刊）と、わが国における官界、学界、民間産業界の原子力関係の動きを資料と共に紹介する「原子力国内事情」（月一回刊）および会員との機関紙的性格と、原子力の関発利用に関する記事をのせる「原子力産業新聞」（月二回刊）および海外原子力資料紹介の目的を持つ「原子力関係資料目録」（速報、月一回刊）の六種であるが、最近においては号を重ねるにしたがって、内容も充実してきている。なおこの外原子力用語、訳語辞典の編集を行い用語は十一月末に、訳語は来春早々出版されることになっている。

以上のように、原子力産業会議の事業運営の基礎は大体においてかたまったものと考えられ、今後この土台の上にわが国の原子力産業確立のために一層の努力をちかうとのことである。

石川調査団長から報告

さきに原子力委員会から派遣されていた訪英原子力調査団の石川団長から正力委員長への報命書では「英国の天然ウラン黒鉛型発電炉は、わが国に導入するのに適した型の一つである」といっている。

教養　原子力講座

有沢広巳　石坂泰三　内田俊一　都築正男　藤山愛一郎　湯川秀樹　監修

（全6巻）

いよいよ刊行開始

<特典>
全巻購読者に別巻「用語解説」（260円）無代進呈

A5判函入上製定価各¥380
今月中一時払特価¥2100

毎日出版文化賞受賞
<NHK推薦>

人間の科学

宮城音弥　川島武宜　杉靖三郎　岸本英夫　湯川秀樹　他編

<受賞理由>
本書は広範な材料と研究成果を駆使して人間の科学としての統一を試みた、尊敬すべき労作である。

❶人間の生産　❷人間の心理　❸人間と社会　❹人間の歴史　❺人間と宗教　❻人間と科学

全6巻　A5上製

1箱入特価¥1800　各価¥320

来るべき第二次産業革命に備え、原子力に関する総合的な知識と対策の把握が、全産業関係者の至上課題となった今日、入門・応用・経済・政治の全般を平易に説いた本講座こそ唯一の座右宝！

❶原子物理学入門　❷同位元素とその応用　❸原子炉と動力　❹原子力と化学工業　❺原子力と国際政治　❻原子力経済入門

〈第一回配本〉全国発売中
同位元素とその応用
〈第二回配本〉本月末発売
原子力経済入門

原子力産業会議会長　菅礼之助

"原子力の開発利用には、科学者、技術者の専門的研究はもちろん、これを増う大衆の知識水準が、新世代にふさわしいものでなくてはならない。そのためにはまず指導書、入門書が必要であるが、この講座は教養としての点に中心をおき、難解な原子力が要領よく説められており、かねての渇望を癒す良書と確信する。"

日本学士院会員　亀山直人

"原子力の開発利用は新大陸発見の如く無限に広い。その世界的競争の先頭近くを進むには、原子力に対する一般の教養を開拓し、新鋭の研究者を盛り立てゆかなければならない。この意味から、私は本講座を推賞し、まずこれによって、国民が原子力の知識を、教養として深めて戴きたい。"

各内容見本送呈

中山書店

東京神田神保町2の24
電話(33)五一四六〈八
振替東京一九六五六五

名古屋のアイソトープ展覧会終る

入場者延べ三十万人に達す

主催者を驚かした中部地方の関心

日本原子力産業会議、日本放射性同位元素協会、毎日新聞社の共同主催で、名古屋の名鉄百貨店に、中部地方の各界から多大の期待を浴びて開かれた原子力平和利用アイソトープ展覧会は十一日間の会期を予想外の盛況裏に終って、十一月十一日その幕を閉じた。開幕前から示した同地方の関心ぶりに、前回におとらぬ人気を得るものとは予想されていたが、いよいよふたを開けてからの殺到ぶりには主催者側でまず驚きの目をみはった会期を通じての延べ入場者数はついに三十万に達し、尻上りに高まったアイソトープ熱は最終日十一日の目標となって爆発的なものとなり、最も多かった午後三時から四時までの間にはもう入場者の数をかぞえることもできなくなる有様。同地方の人口配置から考えてこの入場者数は驚くべき関心ぶりであった。

質問もみんな適正

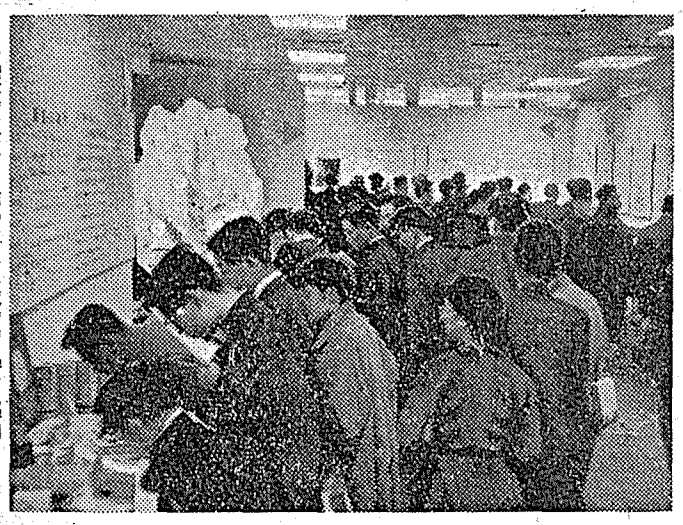
よかった映画の基本説明

会期を通じて特に目についたことは、熱心な観覧者が多く、地方における原子力平和利用への関心の深さを如実に示したことであった。

会場の配置が前回の経験を活かして入門部、歴史などの次に漫画入りのわかり易い映画で十五分間、アイソトープとは何か、どうして作られるかなど、以下の展示品を見るに必要な基礎知識を、平易に説明したことも、この好評を得た大きな原因の一つだったようだ。したがって実験についての質問なども、見当はずれのものはほとんどなく、かえって説明員をたじたじとさせたりする始末。

真珠養殖関係者らしい人が、真珠の色彩に対するコバルト一六〇の影響について質問をしたり、機業関係者らしい人が、アイソトープを利用した織機の静電除去の研究データーについて聞いて来たりするのも土地がらを思わせる一方、アザの治療法がどこでも圧倒的な関心を呼んでいた。

連日の講演会場は毎回超満員。熱心にノートを取る人々の視線を浴びて、平易な解説を旗じるしにしている手前、調子を上げることもできないが、さりとてこの程度の通俗講演で、聴衆が満足してくれるだろうかと、ついには講演の先生方も迷いだす始末。名古屋工業技術試験所の人たちは、これで大衆もアイソトープをほんとうに理解して、われわれの研究の意義もわかってくれるだろうから、これからは研究が楽になるだろうと喜んでいた。



【写真は早朝から詰めかけた展覧会場の学生見学団】

グループと懇談会

第五回経済委員会で続開

日本原子力産業会議第五回経済委員会は、十一月十三日午後一時四十分から、産業会議会議室で第二回目の民間原子力産業グループとの懇談会を行った。この度招待を受けて出席したのは

▽住友原子力委員会　副委員長

北川一栄氏(住友電気工業専務)

事務局長大野正巳氏(日本板硝子生産部参事)

▽第一原子力産業グループ　常任委員二瓶豊氏(川崎重工業常務)　同長山泰慈氏(日商常務)

常任幹事山本広三郎氏(富士電機製造技術部長)

の二グループで、外に委員、専門委員ら。産業会議からは橋本常任理事、仲矢事務局次長ほかが列席した。

前回と同じく川北委員長の司会で産業グループ側からそれぞれ所属各グループの創立事情、機構、性格、活動状況などについて紹介、今後の方針を説明し、これに対して委員側との間に質疑応答があった。

なおこの席上川北委員長から、今後の委員会では、近く帰国する原子力産業使節団員を招いて、皆様とともに視察談などを伺いたいと思っているとの発言があった。

専門部会の研究会

原子動力委今月の活動

十一月の日本原子力産業会議原子動力委員会専門部会の研究会は、去る七日の経済グループを初めとして、十二日機械グループ、十三日電気グループ、十九日冶金グループを開いたが、二十日午後一時からは化学グループが産業会議会議室で開いた。

化学グループ

化学グループの研究会で注目されたのは、まず中部電力の金田委員担当による有機物減速材に関するもので、例えばデフェニルのようなものを使用すれば、金属溶媒に比べて腐蝕の少いこと、他の溶媒を使用する原子炉に比して圧力を低くできる利益があるので、最近米国でもこの方面に対する注意が払われて来ている現状に鑑み同グループでも研究の対象とすることとなったものである。

次は東大理学部村上委員の担当するもので、これは放射線を直接化学反応に応用することは、原子エネルギーの化学エネルギーへの直接転換の問題として、原子力の利用開発上極めて注目されるべき分野であり、今後この方面に対する新分野の開拓に伴ない、原子力工業に無限の発展力を期待されているものである。

東大工学部米田委員担当の重水に関する論文は、重水の製法に安価にできる方法として、さきに米国で発表されているもので、即ちこの方法は液体水素の蒸溜並びに水素液化蒸溜法や塩化水素を触媒とする二重温度水素～水交換法に類似した方法により、比較的安い重水が得られる新製法に関するものである。

なお水の放射線損傷については、同グループでは従来あまり関心をもたなかったが、こんど電研の神山委員が本問題について、さきにブルックヘヴン研究所で発表された水に対する放射線損傷の論文をまず検討することになった。

なお水化学の分野においては、冶金グループと懇合することが考えられるが、冶金グループで取り上げていないものは、積極的に同グループで取り上げることになった。この点については冶金側委員を交えたサブ・グループの会合を作ることも考えられている。ことに腐蝕の機構などは、今後同グループの検討のテーマとして、進んで取り上げるべき問題として確認された。

物理グループと遮蔽班の研究主題

二十一日午後二時からの物理グループのテーマは、加圧水型原子炉(PWR)の臨界実験と指数函数実験、黒鉛制御棒による中性子の吸収、ウラニウムグラファイト格子に関する三文献が討議されるはずであり、二十二日午後一時からの遮蔽班では、原子炉放射線遮蔽設計指針を、今回第三章から第六章まで翻訳し、これまでの原子炉放射線遮蔽設計についての総合的な問題であるので、これについて今後研究を進めることになっている。

米国の動力炉も採算にあう

調査団が帰りに調べる

正力国務相は十一月十三日の記者会見で「アメリカのウェスチングハウス社ノックス社長から、アメリカの動力炉も採算にあう旨の手紙があったので、石川委員らの訪英原子力調査団に、帰途立ち寄ってよく調べて来てもらうつもりだ」と語った。

ノックス氏からの来信によれば、同社製作のシッピングポート発電炉改良型PWR(加圧水型)十三万四千キロワットならば、一キロワット当り約九一一〇ミル(三円二十四銭―三円六十銭)で、税金関係の資本費率をイギリス式に計算すれば七ミル(二円五十銭)程度となり、規模もイギリス型が二十万キロワット以上でなければ採算の合わないのに比べてわが国に適しているとされるものである。

半年内に決めたい

関西実験動力炉設置委

関西地方に設置する実験動力炉の設置位置を調査し、日本原子力研究所理事長の諮問に答えるための関西実験動力炉設置位置調査委員会第一回会合は、十一月十二日午後一時三十分から、大阪市北区堂島中町の中央電気クラブで開かれた。

同委員会は本紙十六号で既報したように、関東側関係者から八名、関西側関係者から十名の十八名で構成されているが、当日は外遊中の諸氏を除いて十五名が出席し、佐々木原子力局長のあいさつのち、駒形原研副理事長から調査会設置の経過、原研の村上業務課長代理から日本原子力研究所東海村研究所の位置選定の経緯について関西電力の吉岡俊男氏から関西地方における従来の調査状況についてそれぞれ報告があった。

ついで運営事項の審議に入り、委員長、副委員長各一名、幹事若干名をおくこととし、委員長には駒形原研副理事長を決め、副委員長には外遊中の一本松珠璣氏を推して就任を交渉すること、事務局は大阪商工会議所内におく、委員会は原則として月一回、委員長が招集して関西地方で開くことなどを決めたが、今後は関西電力が中心となって土地を調べ、半年ぐらいのうちにきめたい方針で、次回は明年一月開くことになった。

受けて重宝
三越の商品券
三越

大阪に原子力館

十六日新設披露式

かねて準備中だった大阪市の電気科学館五階原子力館は、このほど展示品が完成したので、開館に当って十一月十六日午前十時から、同市西区西長堀北通一ノ五の同館で原子力館新設披露式を行った。湯川民生局長の経過報告、中井市長のあいさつ、感謝状贈呈ののち浅野市会議長、太田垣電気科学館協力会会長、杉目本原子力産業会議副会長らの祝辞があった。

二十三日午後調印

日米原子力細目協定

懸案の特殊核物質賃借に関する日米協定(実験用原子炉に使用する濃縮ウラン提供価格などを取決めたもの)は、十一月十九日ワシントンにおいて調印の予定であったが、別項のように、大統領の原子燃料に関する措置承認によってこの協定により日本の使用する核燃料も当然新価格によることとなるため、政府は外務省を通じてこの再交渉をするよう訓令を出したこのため調印は一両日おくれ、大体二十三日午後国務省で谷駐米大使とストローズ原子力委員長の間で行われる。なおこの協定要綱は原子力国内事情十一月号八ページに紹介されている。

原子炉部品が着く

二十三日横浜へ入港

米国原子力委員会は十一月一日、ニューヨーク駐在の丸紅飯田支店に対し、日本原子力研究所で使用する実験用動力炉の日本輸入を許可したと発表したが、これはアメリカの民間工業が初めて行う商業輸出であった。

その部品約十トンが、十一月二十三日横浜港着の大同海運高花丸で到着するはずである。

核燃料値下げ

米・海外へも国内並に

アイゼンハワー米大統領が、原子力平和利用計画促進に関する六つの措置を承認したことが、十一月十七日米国原子力委員会から明かにされた。これによれば、動力炉、実験炉に使用する核燃料を他国に提供する場合は、国内の核燃料使用者に対すると同様の価格でなされることになる。

新価格は濃度の度合によってきめられ、例えば濃度二〇%のウラン一二三五では一キロ約十六ドルで売渡されるが、この価格が一九五五年八月発表された二十五ドルに代るわけである。

なおこの発表では、現行の原子力協力協定の有効期間をさらに十年延長する件、海外から輸入するウラン二三三、プルトニウムに関する件なども明かにされている。

研究には基礎部門も重視

合同委申合せ

自民、社会両党の有志議員からなる原子力合同委員会(委員長中曽根康弘氏)は、十一月十五日午後首相官邸で、三十二年度予算および原子力基本政策について協議した。委員会には湯川、藤岡両原子力委員、日本原子力研究所の安川、駒形正副理事長、原子燃料公社の高橋、原正副理事長も出席したが協議の結果▽研究には基礎部門も重視する▽技術者の養成をはかる▽国内関連産業の育成をはかる▽原子燃料の化学処理部門の施設を早く充実させる▽原子燃料公社の敷地候補地茨城県那珂湊市の米軍補助飛行場三十四万坪の返還促進を政府に申し入れる、などを申し合せた。

これからの工業技術者に必要な原子力の技術文庫
OHM文庫
原子力シリーズ
放射性アイソトープとその応用
文庫413　平田 穣著 120頁 予価150円
原子力工学用語辞典
文庫414　日本原子力産業会議編　近刊
―商工出版発行・発売オーム社―
原子物理学 (1)A5判 800円 (2)A5判 予価650円
シュポルスキー著　玉木英彦訳　A5判 600頁
原子力ハンドブック　各冊A5判
基礎編ナイニンガー著　金関義則他訳 700円
鉱石編グラストン著　渡辺武男他訳 品切
原子炉編(上)グラストン著　服部 学他訳 800円
原子炉編(下)グラストン著　服部 学他訳 800円
原子核工学入門
09 熊谷寛夫著 250頁 定価290円
ノート
140頁 定価150円
発電
200頁 定価220円
測定技術
200頁 定価220円
オーム社　東京神田錦町3の1　振替東京20018

原子力の基礎知識
通産技官　海野高幸編　原子力局長　佐々木義武序
日本図書館協会選定図書
科学技術庁原子力局推せん
誰もが求めていた原子力の入門書！
誰にも必要な原子力の知識を、誰にもわかるよう、理論をその応用面と結びつけて平易に解説してある。本書一冊で原子力のことなら理論から実際まで、何でも理解できる絶好の入門書であり、参考書である。特に巻末に附した「原子力用語集」「原子力資料」は本書の一大特色として好評を博している。
A―5判　上製　274頁
定価 ¥350　送料 ¥50
振替口座東京 110525　TEL (56) 4529
東京都中央区銀座 1―6
東書房

爆笑・原子力野球戦

原研と産業会議が勝つ

科学技術庁原子力局、日本原子力研究所、原子燃料公社、日本原子力産業会議など原子力関係四機関の第一回野球大会は、秋晴れの十一月十七日午後二時、皇居内の宮内庁グラウンドで二試合同時に挙行、敵味方爆笑の中に原子力にふさわしい満塁ホームランも飛出して場内をわかしたが結局

原子力局002 000 4
原研100 530 A 9 6
燃料公社124 300 0
産業会議200 025 4 1310

のスコアで、原子力局に原研の捕りのユニホームに圧倒されてか局長卒先の力闘も空しく力尽き、産業会議は後半の追撃が功を奏し遂に逆転勝ちとなった。

終了後懇親会で一同乾杯、来春は優勝カップも用意する。

佐々木局長談「丁度ストープリーグの最中なので巨人から引っ張られるとうるさいからあまり打たぬようにした。来春はその心配がないから大いにやるよ」

日本原子力産業会議 会員配布刊行物

◇原子力国内事情（第七号）毎月一回十五日発行。十一月号の主な内容は次のとおりである。

▽国際原子力機関規約会議の状況並びに要綱の紹介▽原子力政策調査団の帰国とストローズ声明▽イギリス型発電炉の経済性▽アジア原子力センター設置に伴う日本側の協力▽官庁、民間原子力各機関の活動状況。

◇原子力海外事情（第九号）毎月一回発行。十一月号の主な内容は次のとおりである。

▽高速炉仮認可をめぐる問題点▽日米フォーラムの合同会議▽シカゴにおける歩み寄り▽アメリカ政界のハリケーン・シーズン▽黒鉛の熔接▽AEC特許権を放棄▽世界銀行における英米原子力巨頭の演説（特許資料）

◇原子力資料（第十号）十一月二十五日発行。

▽世界各国の原子力計画（マッキニー報告基礎資料）

さきに第五号として全訳を刊行したマッキニー報告の第九章海外関係の基礎資料。世界の六十二ヵ国の原子力体制と計画とに関する調査報告。

原子力知識のメッカ

―教養原子力講座配本開始―

新刊…「人間の科学」で一九五六年の毎日出版文化賞をうけた中山書店が、各界有識者のすすめによって、一流原子力専門家、学者五〇名の執筆構成になる平易に解説された教養原子力講座全六巻の配本を開始した。

原子力の開発利用が、単にエネルギー生産だけのものでなく、ほとんどすべての分野にわたって驚異すべき進展をみせており、この動きは遠からず産業の再編成にまで行きわたることは既にわれわれの常識となってきている。

このときに、かかる良書が刊行されたことは、文化人の教養を一層高める上に役立つものとして、高く評価される。

紹介…五六年の毎日出版文化

高純度の黒鉛

昭和電工で成功

東京、大阪、名古屋で日本原子力産業会議の原子力懇談会に講演しさる十月二十二日午後五時半羽田から帰国した仏原子力庁総合計画局長のジュール・ゲロン氏が、帰りの荷物の中に、四角、長さ十七糎の黒鉛塊を入れて行った。これは昭和電工から実地試験の依託を受けたもので、同社ではかねて原子炉用高純度黒鉛の研究を進めていたが、このほど硼素一億分の五、灰分百万分の七という優秀品の製作に成功した。しかしわが国にはまだ運転中の原子炉がないので、これが強烈な放射能や高温度などの原子炉内での実用にたえ得るか、その実地試験で行き悩んでいたが、ゲロン氏の好意でフランスのサクレー原子力研究所でテストを行うことになったものである。

同社では昭和二十九年度から大町工場で試作研究を進めていたが、グレート・コークスを原料として、原子炉の中性子減速材としてほぼ適格な、高純度品の試作に成功したものであった。明年度には工業化のため、中間プラント建設に取りかかるはずである。

原子燃料とは何か

【問】原子燃料とはどんなものか

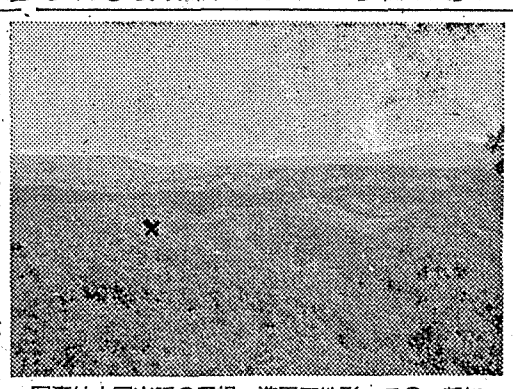
【答】原子炉の中にさし込む燃料のことで、天然ウランを使用する場合と、濃縮ウランを使う場合とがある。

原子燃料は核燃料とも呼ばれ、その原料となるものが核原料であるが、これはウラン鉱、トリウム鉱のことである。即ちウラン鉱山から掘出されたウラン鉱石、即ち核原料から核燃料即ち原子燃料へともってゆく順序である。

天然ウランは、原子量二三八のウラン二三八と、原子量二三五の同位元素ウラン二三五とから構成されて居り、ウラン二三五は核分裂し易い物質であるが、量的に後者は前者の一四〇分の一、即ち〇・七一％余しか含まれてをらないウラン二三五の含有率を高くすること即ちウラン二三五の濃度を上げるため、つまり濃縮するためには、天然ウランをガス状の弗化ウランとし、それを隔膜を通して拡散させると二三八と二三五とが分れてゆく。この操作を何回もくりかえして行うと二三五の含有が濃くなり、全体の二〇％位まで濃度が上る。これが濃縮ウランである。

核原料となる鉱石の第一はウラン鉱

【問】鉱石――核原料即ちウラン鉱石、トリウム鉱石――にはどんなものがあるか？



写真は中国山脈の尾根一準平原地形、この一部に水成ウラン鉱床が発見された一人形峠鉱床【×印】

【答】第一にウラン鉱石があげられる。ウラン鉱石の定義は、ウラン鉱物をある程度以上に、多量に含み、その結果鉱石全体としてのウラン品位が開発価値を具える程度にまで達しているものをいう。従ってウラン品位が非常に低いものは、鉱石と呼ばれる資格はないわけである。しかしながら電力その他の動力源に原子エネルギーが活用される時代が、予想外に早く近づきつつある現状では、世界一般の傾向としては、貧鉱処理の方向に向いている。つまりかなりの貧鉱でも一定の品位と性質を具えるものは、大量処理の利点となり随分低品位のものでも、立派に鉱石と呼び得る時代になりつつある。

鉱石として一番良質のものは、ウラン鉱物としてピッチブレンドか閃ウラン鉱を含む種類のものである。それは元素のウラン鉱物はウランの含有量が最も多く、また比重が最も大で、かつ選鉱、製錬ともに最も容易にできる等、沢山の優れた点をもっているからである。

世界的な大鉱山から多量に産出しているウラン鉱石はほとんど例外なしにピッチブレンド、閃ウラン鉱物を相当多量に含んでをり、ウランのほかにコバルト、ニッケル、ビスマスや、銀、鉛、さらに金、銅等の金属鉱物が共存して鉱脈を構成している。世界一のウラン鉱山のアフリカ、ベルギー領コンゴーのシンコロービ鉱山を初め、カナダのグレートベア州のエルドラド鉱山、チェコのヨアヒムスタール（現名ジャキモフ）等がこの例である。

閃ウラン鉱というウラン鉱物はベグマタイト（巨晶花崗岩）にも含まれているが、ベグマタイト中では極めてわずかの量に過ぎないのが世界一般の通例で、大量採掘の対象になった例を見ない。カナダやドイツでは花崗岩中に閃ウラン鉱が鉱染して大きな鉱染鉱床を形成するものがあり、カナダのものは高品位ではないが、大規模に開発されて居り、ドイツのものは低品位のために、なお探鉱中と聞く。

閃ウラン鉱を含む鉱石が大鉱床をなして盛んに採掘されているのは、アメリカのコロラド高原の水平堆積層中の鉱床で昔から有名なカルノー石鉱石にとって代ろうとしている。

サマルスキー石、フェルグソン石、ユークセン石等のウラン鉱物はベグマタイト中にしばしば賦存し、またベグマタイトから導かれた砂鉱中に産する。これ等は、いわゆるベグマタイト鉱物であるがウラン含有量の点で、ピッチブレンドや後述の燐灰ウラン鉱等の二次鉱物に比べて大分劣り、その上ニョーブューム、タンタル等と結びついて居るため、製錬に手間がかかり、コスト高となるを免れない。しかしながら砂鉱中にこれ等のベグマタイト鉱物が大量に集中してをれば、砂鉱々石として立派に掘れる。

以上はウランの初成鉱物から構成された鉱石の主要なものであるが、ウラン元素は地下水や雨水にとけやすいので、ウラン鉱物は、地表や地下、浅い所では、容易に分解し、変成し、あるいは他所に分散移動していろいろ多種の二次鉱物をつくる。その種類は極めて多いが、その最も主要なものに次のようなものがある。

ヴァナジウムもふくむカルノー石

・カルノー石は、黄色の目立つ鉱物で、昔からアメリカのコロラド高原の水平砂岩層から掘出されているので有名である。この鉱物はウランの外にヴァナジウムを含有するので、この鉱物を含む鉱石はヴァナジウムの資源にもなる。コロラドの赤い砂の層の中に黄色いカルノー石がまじる鉱床を、水平層に沿い奥の方へ掘進してゆくとまわりはカルノー石で、中の心（シン）の方には灰黒色の閃ウラン鉱が残っている鉱石が出て来たので、カルノー石は元閃ウラン鉱から二次的に変成したものであることがわかって来た。現在コロラドからは閃ウラン鉱にカルノー石その他の二次鉱物をまじえた鉱石が盛んに掘出されている。カルノー石によく似たチュヤームン石はソ連の辺境フェルガナの砂岩層中に、カルノー石に伴って広く賦存しており、両鉱物から成るウラン鉱石はソ連圏の重要なウラン資源になっている。

その他の二次鉱物

二次鉱物はすこぶる多種あるが主なものは次のようである。

燐灰ウラン鉱　色は帯緑淡黄色
燐銅ウラン鉱　色は淡緑色
砒銅ウラン鉱　色は淡緑色
バルソン石　色は淡褐色
ウラノフェーン　色は淡黄色

燐灰ウラン鉱は一番多い二次鉱物であり、ウラン鉱床露頭部や地下浅い所の酸化帯では、ごく普通に見られるものである。燐銅ウラン鉱もありふれたもので特に銅鉱物に伴って産し、砒銅ウラン鉱はむしろ比較的まれな産出で砒素鉱物に伴って出る。バルソン石は燐鉛ウラン鉱とも訳すべきもので、一般にはまれなものであるが、フランスの中央山塊では広地域にわたり、量的にまとまって賦存する所があり、長年採掘の対象になっている。ウラノフェーンはごくありふれた二次鉱物で、鉱脈はもとより、ベグマタイトや、花崗岩中にもよくみられることがある。

これ等の二次鉱物が現われている鉱床の下部には、ピッチブレンドのような初成鉱物が常に賦存するとは限らないが、存在する可能性が考えられるから、二次鉱物の存在は探鉱上すこぶる重要なことである。ポルトガルの古い鉱山では、地下深部まで二次鉱物がつづき、地下二百メートル坑道レベルで始めてピッチブレンドが顔を出したという記録がある。

右に述べた代表的な二次鉱物類は、ピッチブレンドにくらべればウラン含有量は少いが、ベグマタイト中のいわゆる難溶性鉱物にくらべれば、はるかに多く、かつ処理が容易であるから、これ等を含む鉱石が量的にまとまって鉱床を形成すれば、立派に採掘稼行される資格のあるものである。

原子燃料のできるまで

燃料に二つの場合

天然ウランと濃縮ウラン

（上）

北上地方でウラン探し

通産省工業技術院地質調査所では、十一月末から約一ヵ月、北上地方で上空からウラン探しをする。

原子災

核エネルギーによる被害を金銭的価値に換算し、民営損害保険会社が担保する方式、これが原子力保険である。

特に原子炉の制御不能事故という万一の場合を予想し、米国のデュケン電力会社のシッピング・ポート発電所をテスト・ケースとして、財産保険（所有機の物的価値の保険）賠償責任保険（自動車保有者については保険加入を強制または間接強制する法制が世界的傾向）の両面について、原子力保険を全世界の損害保険会社がプール方式で消化することとなりつつある。その消化力は一原子炉につき数百億円に達しよう。

原子力保険について

プール式で消化の傾向

動力原子炉の万一の事故によって、空気、水、土地が放射能汚染を被った場合に、電力会社の損害賠償金負担額が民間保険加入金額を越える恐れもあろう。かかる万一の場合に備えて、五億ドルを限り米国政府が補償（民間賠償責任保険のエクセスを填補）しようというアンダーソン法案は未だ米国議会を通過しない。

英国においても中央電力公社の手に原子力発電が移るはずであるが、公社は、財産保険と賠償責任保険の双方を民間保険市場に求める模様である。

米国及び英国においては、国営原子力工業の従業員の業務上の放射能疾病に対しては労働者災害補償保険（民間保険会社に加入）が万一の場合の保障となっている訳であるが、保険給付金支払い事故は、今日まで僅少に止っている。

米国海軍の誇る原子力潜水艦ノーチラス号も、造船所で建造中から、即ち一九五五年一月一日ウエスチングハウス社製の加圧水型原子炉到着の時から、労働者災害補償保険と（第三者に対する）賠償責任保険とをノース・アメリカ保険会社に附保しているのである。

ラジオ・アイソトープの保険と銘打って、その盗難等の財産保険、その放射能被害者への賠償責任保険などを一枚の保険証券にして発売している事実は、今年春の英国保険会社の考課状に印刷された社長のあいさつに散見される。

元来世界の損害保険人は、危険の再分散を再保険の授受によって行う関係が、一種のギルドに属する人々のように仲の良い面がある。

しかし原子力保険の引受については、その約款、料率表を手紙や電報一本で入手し得るとは限らない。ロンドン、ニューヨークにおける派遣員が果して何時入手して呉れるのであろうか？と待ち遠しいものもある。更に、原子炉についての保険の約款と料率は、米国においてすら目下審議中なのである。

（真崎　勝）

米国アイソトープ利用報告書

Industrial Utilization of Radio Isotopes

1946 — 1956

内容　本報告書はアメリカ原子力委員会の民間利用部アイソトープ課の資料に基づいてアメリカ原子力産業会議が編集したもので，アイソトープの配分開始の 1946 年から 1956 年までの 10 年間に工業的に利用した業種別会社名，アイソトープ核種，使用目的，使用年度の全リストである．

頁数　A4判（菊倍判）　133 頁

複製予約申込受付中　実費頒価 500円　送料 32円

申込先　日本原子力産業会議事業部　東京都港区芝田村町 1-1　TEL: (59) 6981

科学技術庁原子力局・責任編集

原子力関係法規集

◇官公庁・学校・研究所・病院・会社
銀行等の実務者に贈る決定版◇

△原子力及びアイソトープに関するあらゆる規定、あらゆる手続が、体系的且つ事項別に整然と分類整理され、法令編のほかに資料編、英文編を特設、利用者の便宜に供しております。常に内容の現行を維持するために、綴込装置を施した加除式とし、今後改廃、追加される法令・制度等を、その都度迅速に補充いたします。

内容の特徴

判型……A列5判
組方……8ポイント2段
装幀……加除式
総クロース表紙
背金文字入
用紙……上質紙使用
頁数……600頁
定価……800円
荷造送料……70円

好評続々
○日本税法大成（全12巻）定価8000円
○交通関係法令集（全1巻）定価1100円

原子力産業新聞

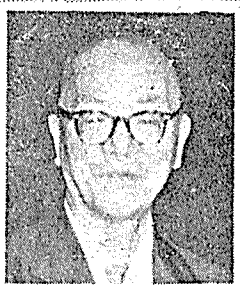
発行所
日本原子力産業会議
東京都港区芝田村町1の1（東興ビル三階）
電話（59）6981—4
振替東京　5895
購読料
定価一部　20円
一年分前金　200円

原子力産業使節団帰る

使節団の帰朝を迎えて

原子力委員長　正力松太郎

原子力産業使節団が、非常な成果を上げて無事帰朝されたことを、心からお喜び申し上げたいと存じます。



その意味におきまして、現在及び将来においてわが国の原子力産業を直接に担当し、指導する立場にある有力な産業経営者諸氏が、しかも原子力関係の各部門を代表して、先進諸国の世界的な影響力をもつ指導者や産業人と親しく話し合い、各国の原子力開発利用に関する文字通り国をあげての積極的な熱意にふれると共に、その推進の衝に当っている人人の抱負や経験を学びとり、将来の民間産業人による国際交流の大道を開かれたことは、わが国原子力開発の将来の広範な基礎をかためられたもので、その意義はまことに大きいものがあると考えられます。

また、とくにアメリカ産業会議との間に来春東京において合同大会を開催する件についても意見の一致をみたとの事であり、使節団の使命をさらに将来に向って拡大し大きい成果をつかみとる筋をつけたものとして、まことに結構なことと喜んでいる次第であります。

また、団員諸氏が自分の眼で見られた先進各国の原子力の諸施設や状況は、将来わが国において各産業部門の中に原子力を導入するに当り、その長短を比較検討する良い参考となり、その機運を著しく促進するものとして役立つことを深く期待するところであります。

この使節団に参加された団員諸氏が、今後その国際経験を生かして国の原子力開発の推進に有効な協力をして下さるようお願いして、歓迎の言葉といたします。

使節団の使命と活動

使節団は、欧米先進国との間に、原子力平和利用に対するわが産業界の積極的意思を伝達し今後の友好関係を促進する一方、各国の原子力施設を視察しわが国の原子力開発上の諸問題について先方諸機関と懇談する使命をもって出発した。まず米フォーラム大会に出席、申入れ三事項を伝達し、ついでストローズ委員長、米フォーラム幹部らと会見、わが国原子力開発の促進、研究方法、協力態勢について懇談し有益な示唆をうけた。米、加、仏の原子力事情を視察し最後に英コールダーホール原子力発電所を訪れるなど多大の成果を収めた。

わが国原子力産業に一転機を

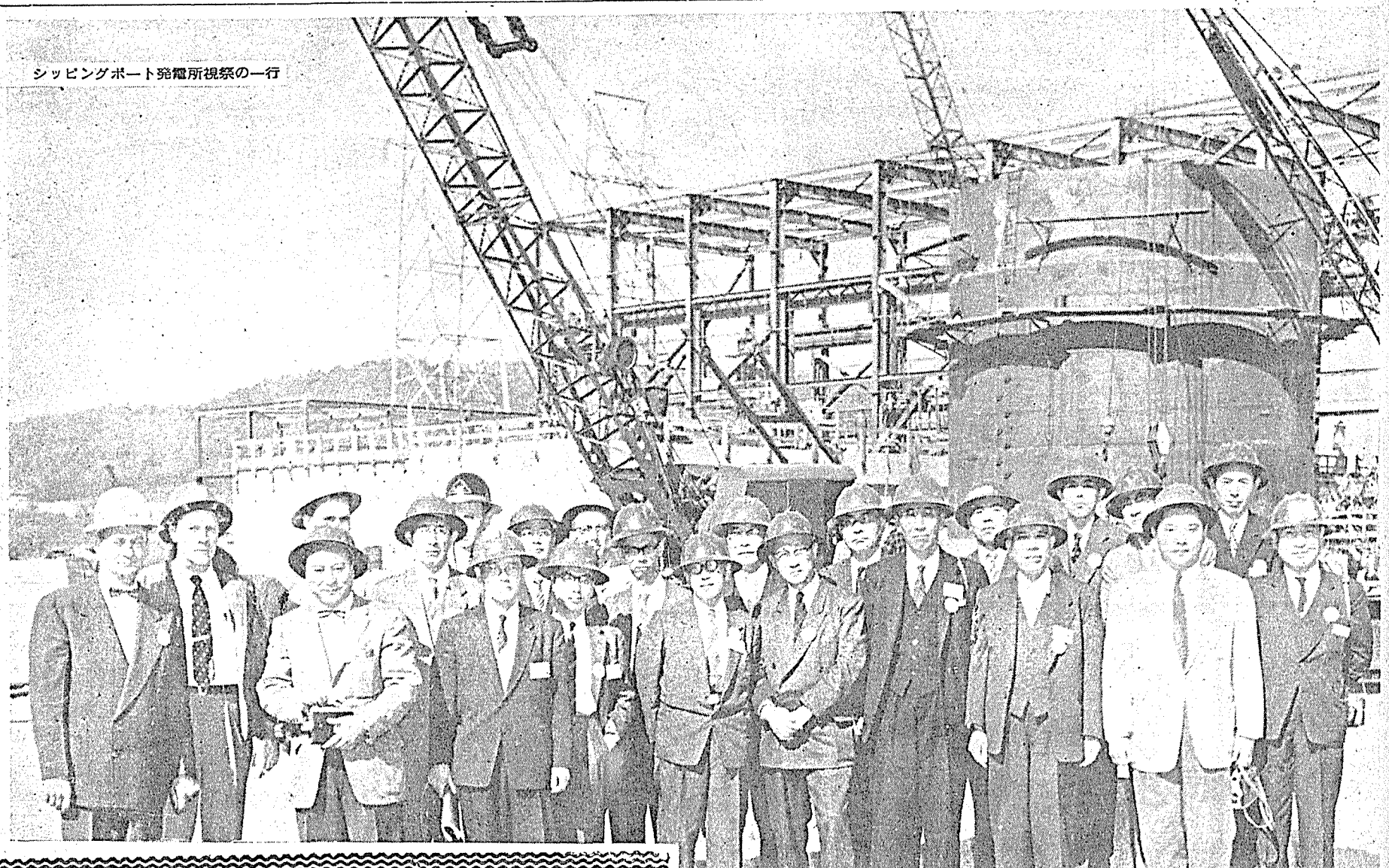
日本原子力産業会議会長　菅礼之助

使節団一行が無事任務を果して帰朝せらるるに際し、わたくしは産業会議創立当初からの大きい念願がこれでやっと果せたという一種の感慨に打たれている。歴訪先からのたよりによると相当な強行軍であったらしいが、団員各位が健康を損われることもなく、且つ積極的に話合いや視察の機会を活用されて模様で、その点深く敬意を表する次第である。

この数ヵ月は国際的にも国内的にも、原子力関係の動きが一段と急テンポを加えジュネーヴ会議の成果がようやく実を結ぼうとして、国際管理機構が検討され、あるいは双務協定のいわゆる秘密条項も緩和される方向に向い、わが国からもイギリスへ政府の調査団が派遣されるなど原子力の平和利用が一段と進展してきた時期であった。

このような世界的動向の中で、先進諸国の指導者や産業人と会談し、あるいは各国の原子力産業の育成に関する政府、政治家、産業人、学者、技術者等の緊密な協同の体制とその組織の有機的な運営を見、また巨大にして精密な原子力諸施設を視察し、競争的な開発の促進ぶりや、国をあげての熱意等の雰囲気に触れ、国際的視野のもとにわが国の原子力事情を顧みる素地を与えられたことは、凡ゆる有形な収穫に劣ることなき大きな成果であったと考える。もちろん米国フォーラム大会に出席し各国の有力産業人と懇談を深め、また日米合同会議の開催の議がまとまり、あるいはストローズ委員長の画期的な声明を得たことなどは現実の具体的成果であり、このようにして、国際的交流の具体的な進路が拓かれ、わが国原子力開発の促進と、各産業部門への原子力導入について、一つの転機が与えられるに至ったことを深く慶賀し、ここに感謝と歓迎の言葉とします。

臨時増刊号



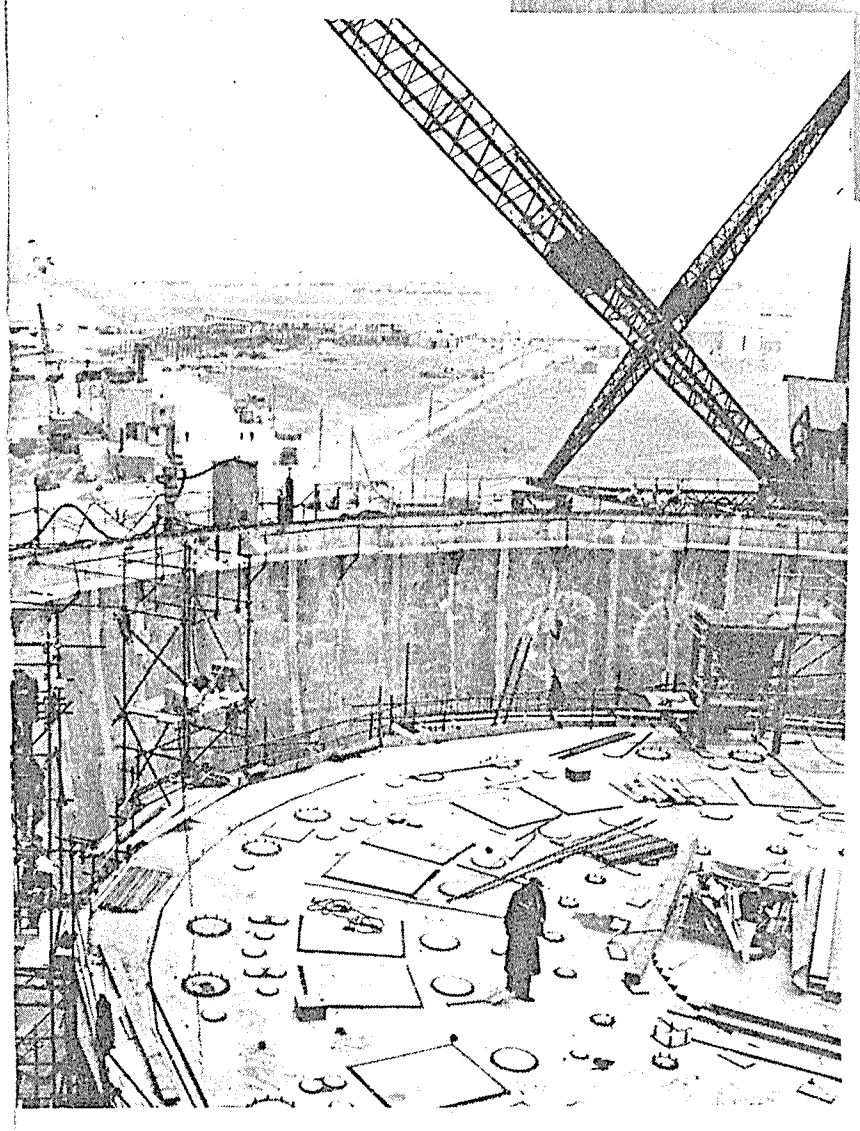
シッピングポート発電所視察の一行

原子力産業使節団帰朝記念号

シカゴ原子力産業展示会　原子力関係の真の認識を深める趣旨で今回開催された米国原子力産業会議（フォーラム）年次大会に、同会議主催のもとに原子力トレード・フェアが9月24日から28日まで五日間シカゴのネビー・ピアーで開かれた。会場は約千三百坪の広さで、原子力関係のメーカーやサービス関係一二三社からモデル、製品サンプル等の出展があり、また出版社四十社からの展示もあり極めて大規模のものであつた。

オークリッジ国立研究所　オークリッジは、第二次大戦中に、原子力研究のために生れた人工の街である。この研究所は濃縮ウラン工場と、六種類に亘る研究用原子炉を持つアメリカ最大の原子力研究所の一つである。

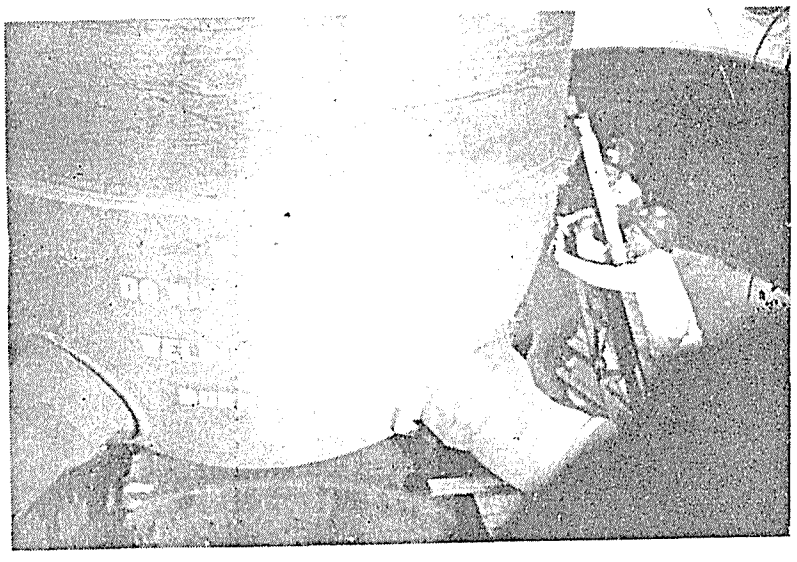
シッピングポート原子力発電所　アメリカ原子力発電開発五ヵ年計画には五つの型が試験的に選ばれている。この原子力発電所はそのうちの一つで一九五四年建設に着手、PWR（加圧水）型、電気出力六万KW以上、一九五七年には一般民需用に送電を開始する。総工費は一三六億円。



シッピングポート原子力発電所で発電所模型の説明をきく　左から長尾中国電力副社長一人おいて島村原子力局政策課長、大屋団長、松根産業会議常任理事、柴田同参与、藤永三菱造船技師、前田富士電機取締役、石川鹿島建設常務、久野新三菱重工業技師長、阪本住友電工技術部次長

団長・大屋　敦氏

松　根　宗　一氏



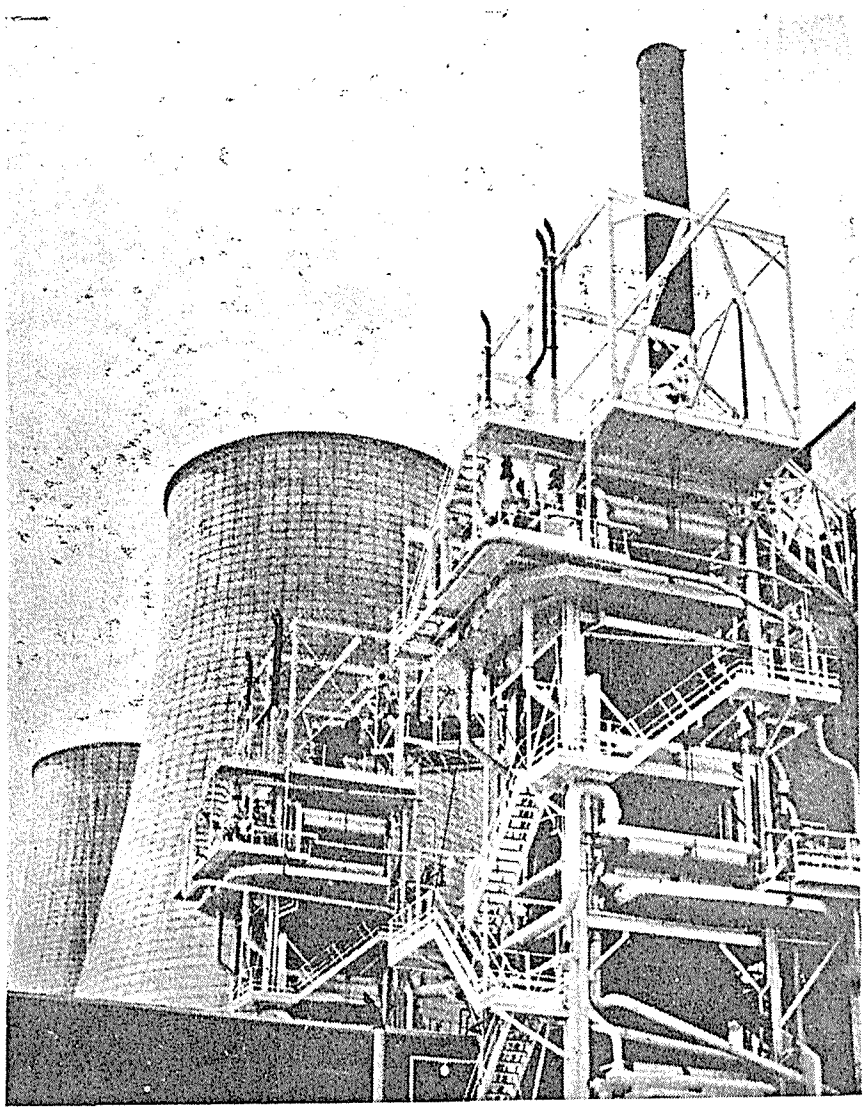
シッピングポート原子力発電所のプレッシャーヴェッセルの底部（米）

石川島重工業株式会社
代表取締役社長　土光敏夫
本社　東京都中央区佃島五四
電話深川（64）代表4171～9・5171～9
営業所　東京都中央区日本橋通三ノ二広瀬ビル
電話　千代田（27）6171～9

旭化成工業株式会社
取締役社長　片岡武修
大阪市北区宗是町1
東京都千代田区有楽町1—10

流便節用帳

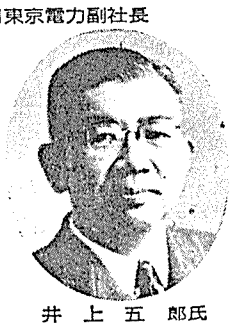
急ピッチな世界の原子力



完成したコールダーホール原子力発電所（英）

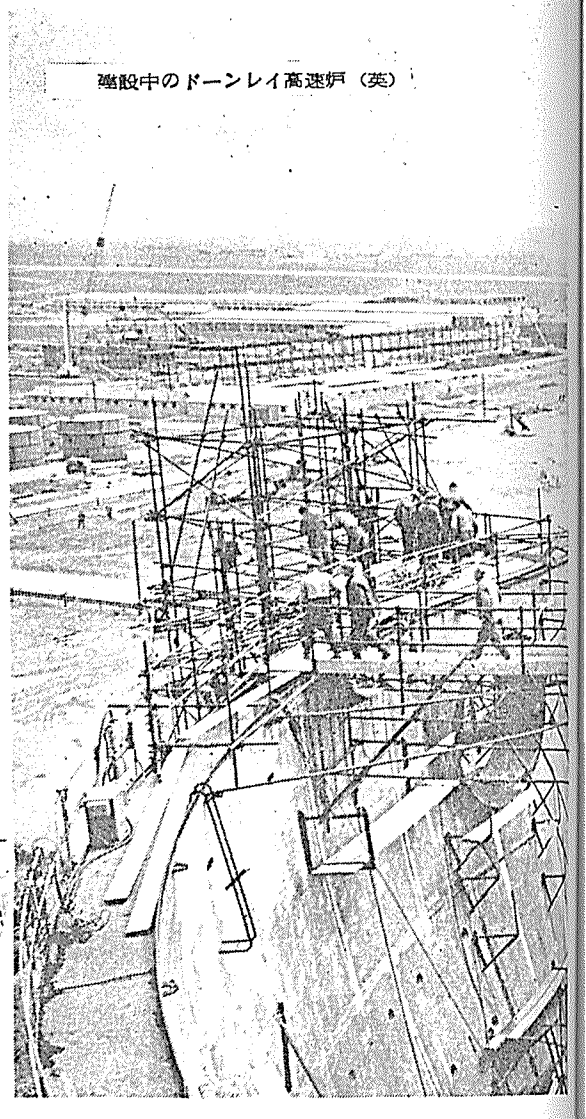
オークリッジ国立研究所でスウィミング・プール原子炉を見学中の一行
左から栗西日産化学副社長、松根産業会議常任理事、一人おいて丹羽三菱造船社長、馬村原子力局政策課長、木川田東京電力副社長

木川田一隆氏

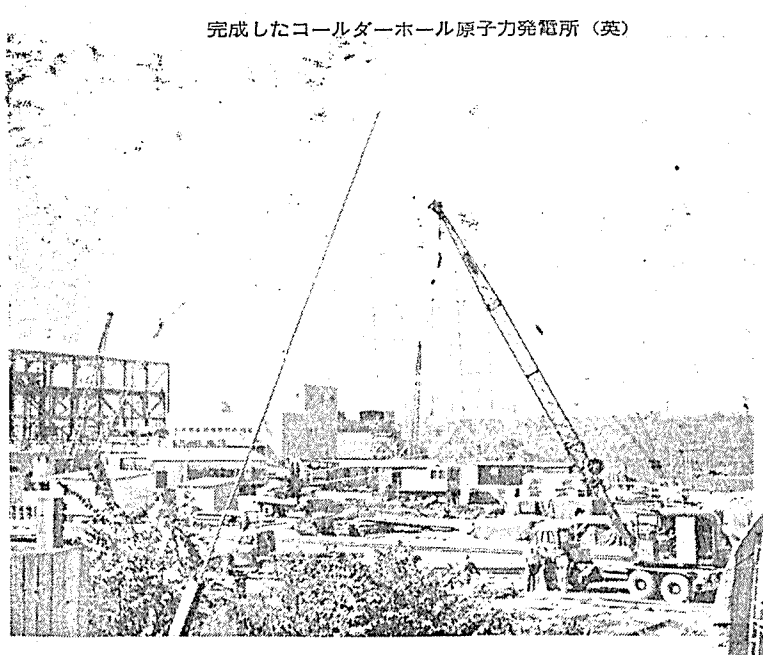


井上五郎氏

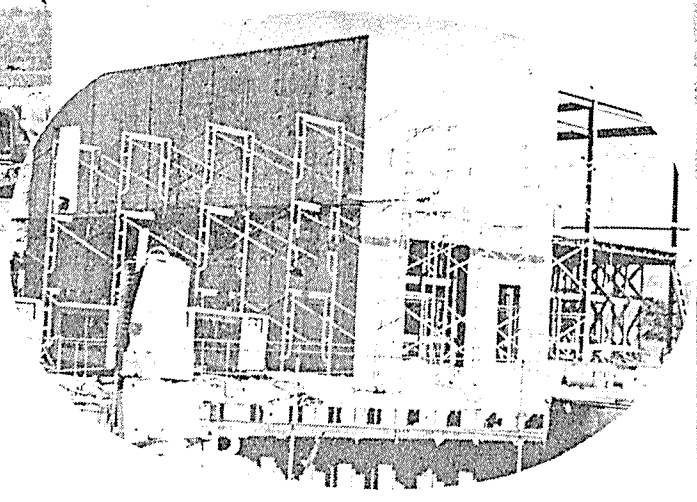
長尾節造氏



建設中のドーンレイ高速炉（英）



ヴァレシートスに建設中のジェネラルモータース会社の原子炉（米）



建設中のシッピングポート原子力発電所（米）

清水建設株式會社

社長　清水康雄

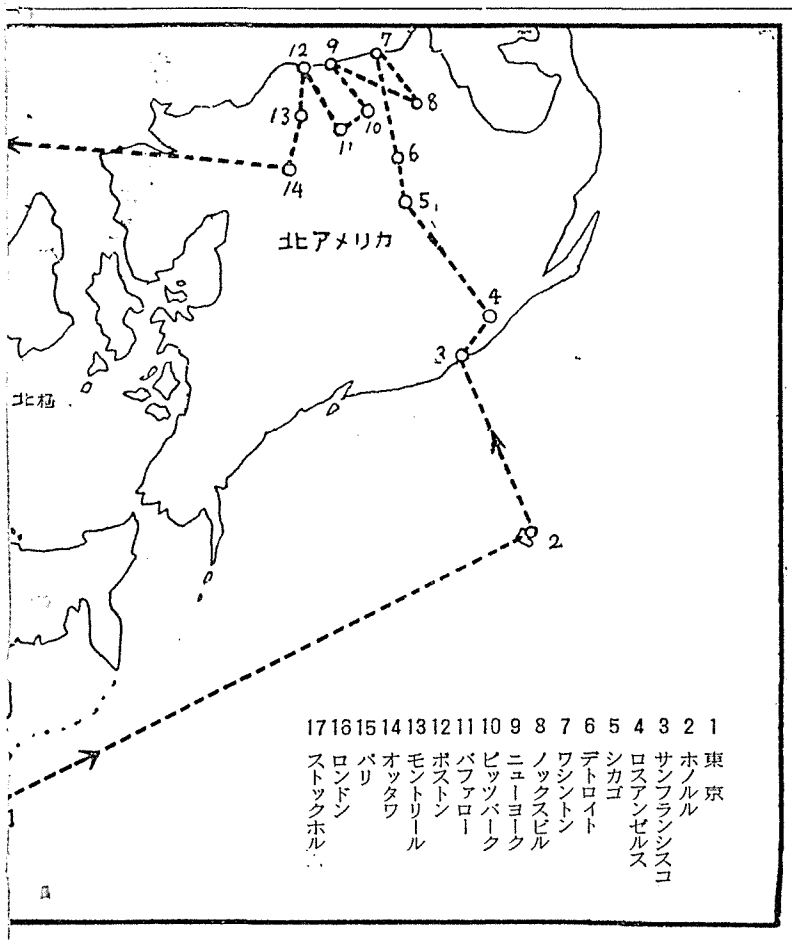
本社　東京都中央区銀町2ノ1
電話京橋(56)代表4181・5181・8411
支店　名古屋・大阪・広島・高松・福岡
金沢・仙台・札幌

力
鹿島建設株式会社

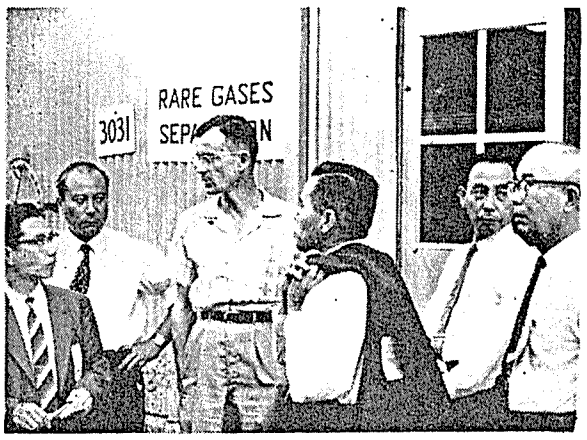
社長　鹿島守之助

本社　東京都中央区八重洲5ー3
電話東京(28)6211・6311
支店　札幌・仙台・横浜・名古屋
大阪・広島・四国・九州

祝使節団帰朝

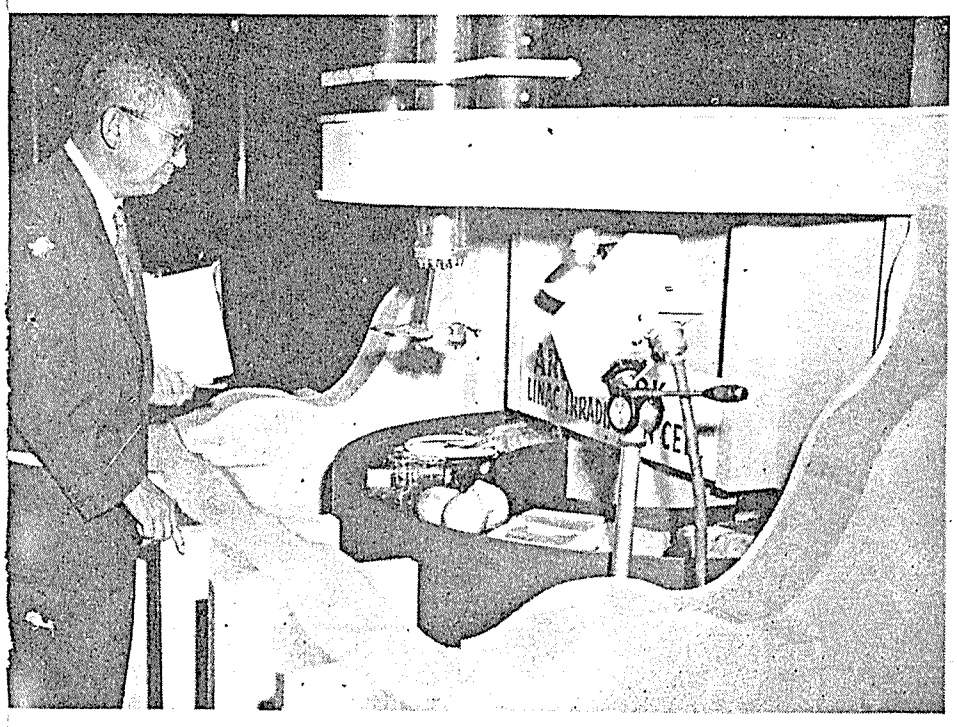


シカゴ・フォーラム展示会場の井上中部電力社長



オークリッジ研究所で化学工場見学中の一行　左から藤田産業会議事務局員、柴田同参与、一人おいて前田富士電機取締役、片桐旭化成副社長、岩永東洋レーヨン常務

ブルックヘヴン国立研究所天然ウラン・黒鉛型原子炉の前で　左から長尾中国電力副社長、片桐旭化成副社長、藤永三菱造船技師



シカゴ・フォーラム展示会場で模型をみる　左から久留島同和鉱業社長、松根産業会議常任理事水野開発銀行主査、井上中部電力社長

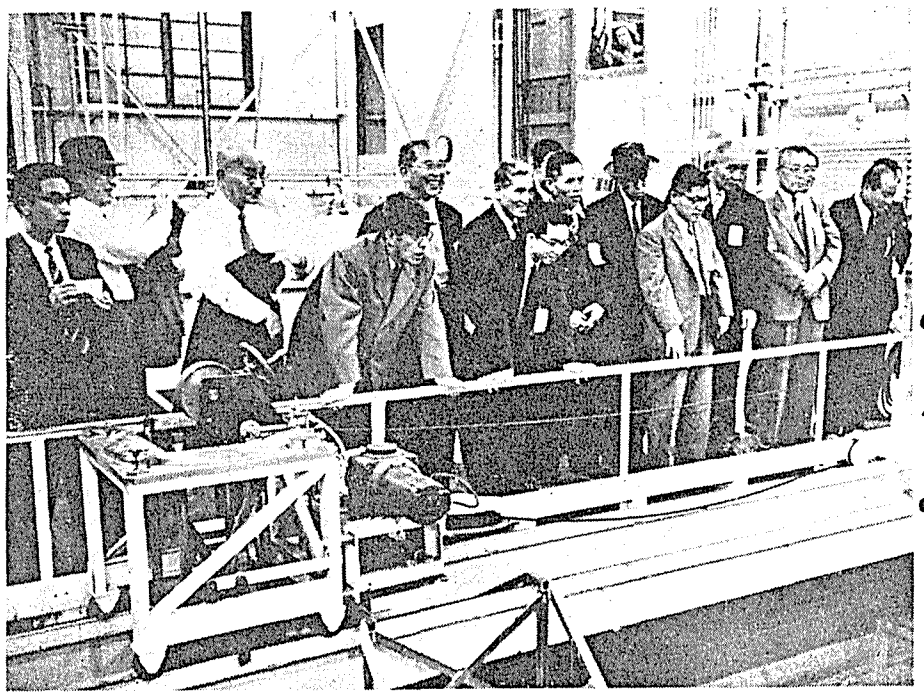
大野才三氏

瀬藤象二氏

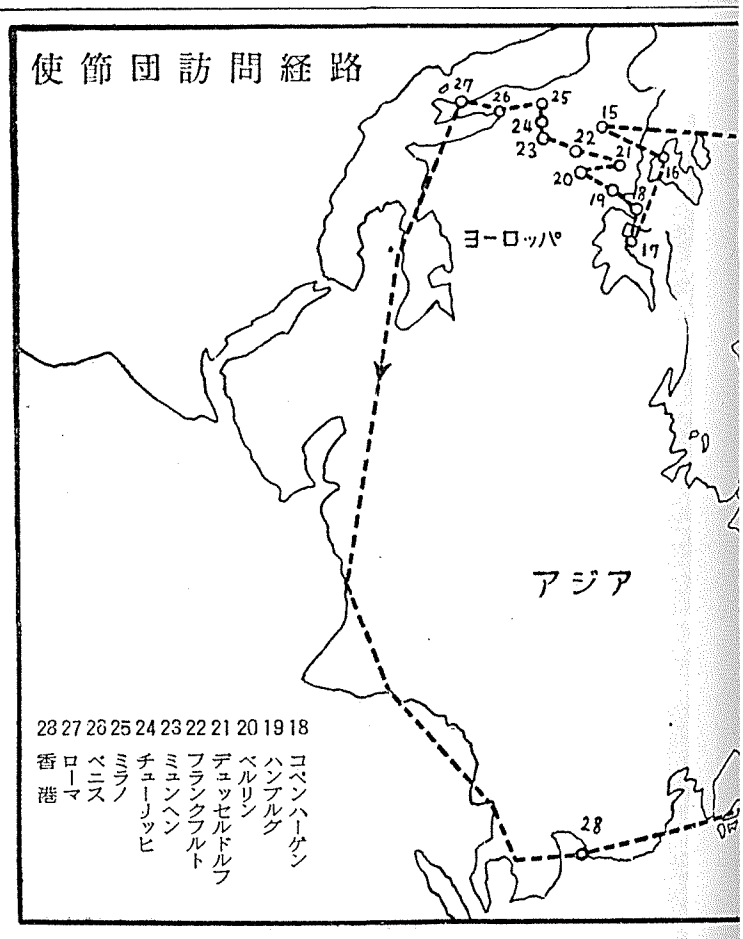
大西定彦氏

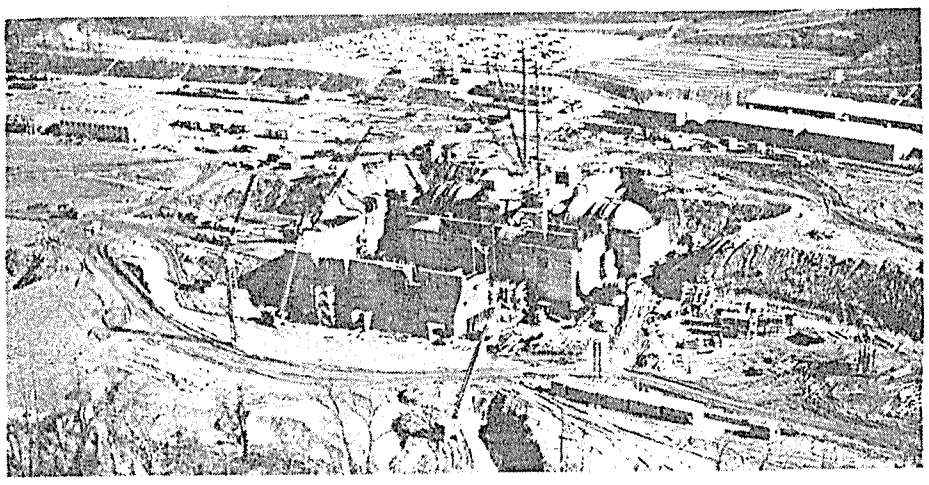
北陸電力株式會社
中部電力株式會社
東京電力株式會社
東北電力株式會社
北海道電力株式會社
祝使節団帰朝

使節団 友好の任を果す



オークリッジ国立研究所でスウィミング・プール原子炉をみる　左から藤田産業会議事務局員一人おいて土光石川島重工業社長一人おいて瀬藤東京芝浦電気専務、沢井昭和電工大町工場長、前田富士電機取締役、大野三菱電機研究所長、二人おいて丹羽三菱造船社長、柴田産業会議参与





建設中のシッピングポート加圧水型発電所の全景（米）

シカゴ・フォーラム展示会場でシスラー前フォーラム会長（右）と語る井上中部電力社長（左）

オークリッジ国立研究所で見学中の井上中部電力社長、松根産業会議常任理事、長尾中国電力副社長

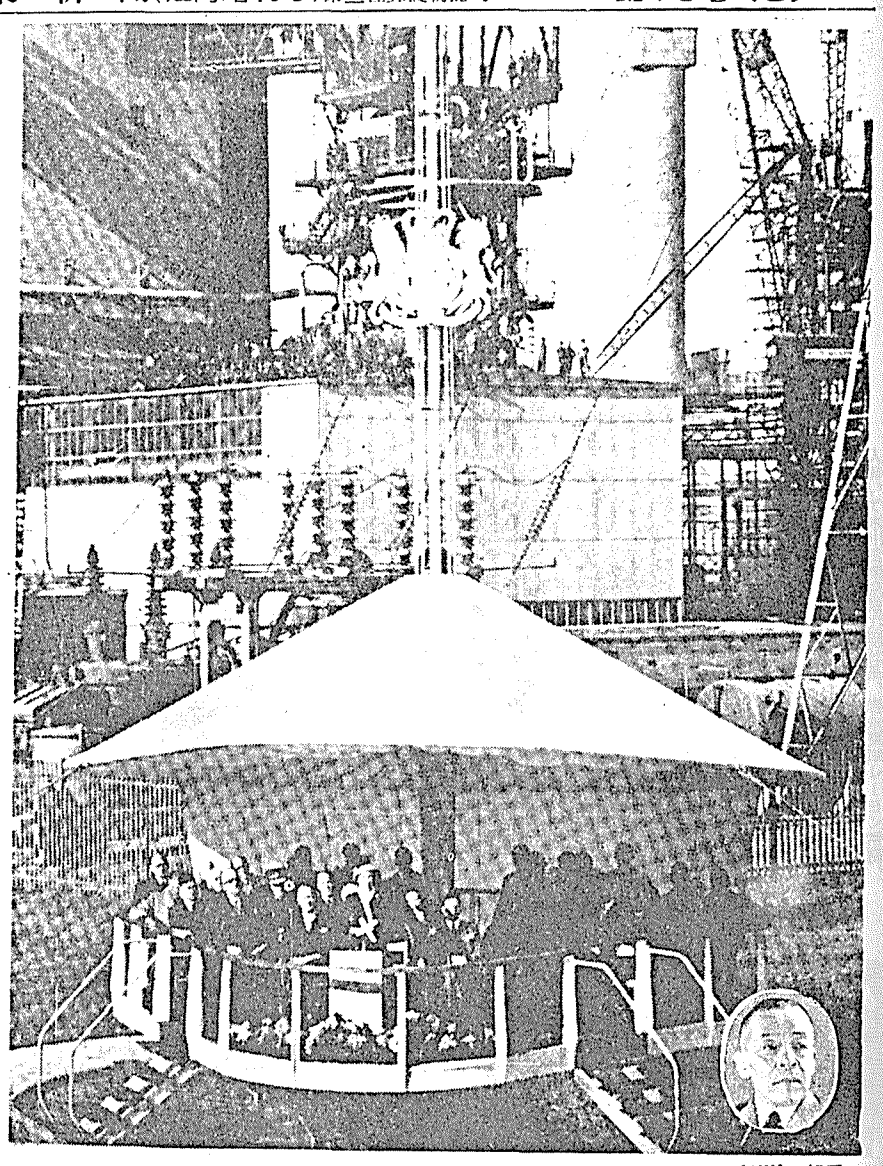
シカゴ・フォーラム展示会で熱心に見学する石川島建設常務

久野五十男氏

前田七之進氏

祝使節団帰朝

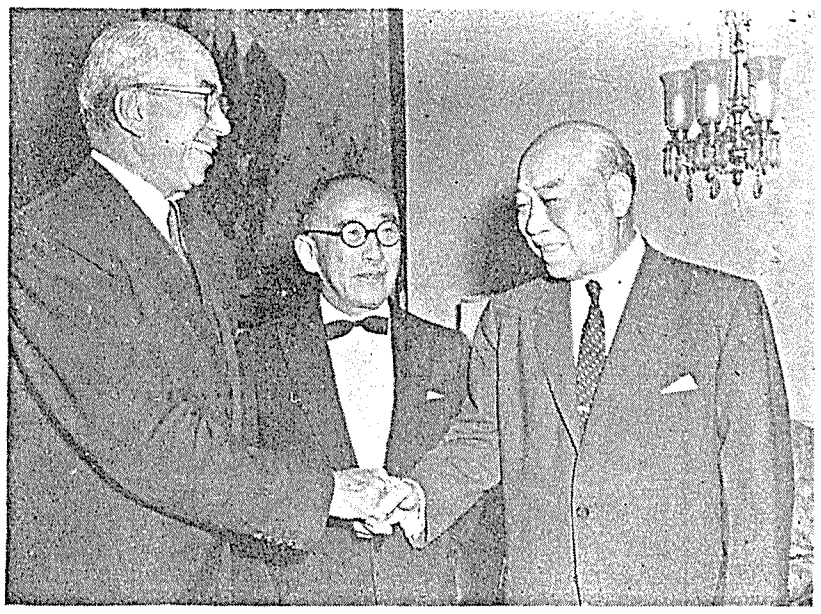
関西電力株式會社
中国電力株式會社
四国電力株式會社
九州電力株式會社
電氣事業連合會

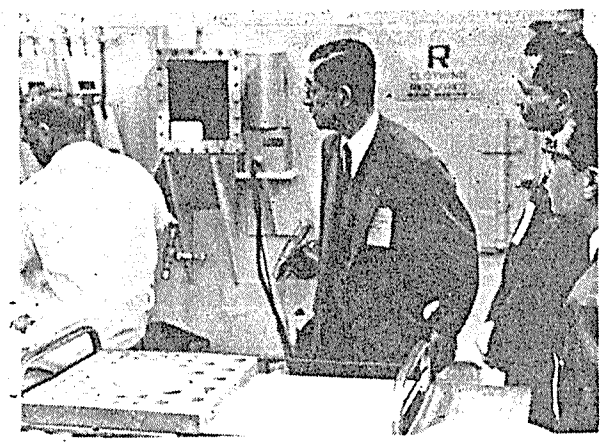


10月17日エリザベス女王御臨席の下にコールダーホール原子力発電所開所式が行われた。日本からは原子力委員石川一郎氏（当会議顧問）が出席した。（英）

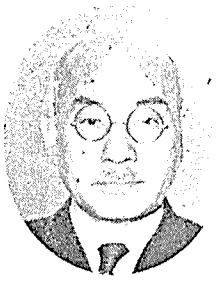
×印はエリザベス女王　石川一郎氏

日本大使館レセプションで歓談するストローズ委員長（左）大屋団長（中央）谷駐米大使（右）





オークリッジ国立研究所でラジオアイソトープ製造の実験をみる久野新三菱重工技師長



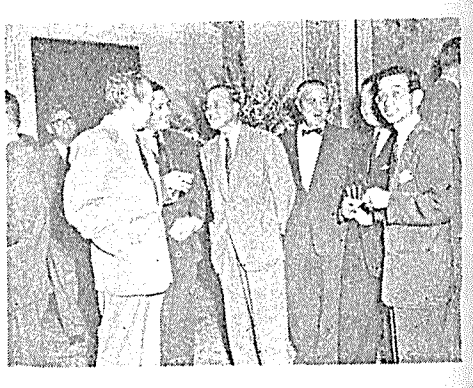
土光敏夫氏

オークリッジ国立研究所の岩永東洋レーヨン常務、角野八幡製鉄副社長、石川鹿島建設常務

粟西　清氏

久留島　秀三郎氏

丹羽周夫氏

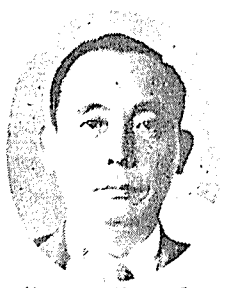


日本大使館のレセプション　左からロジャース氏（AEC外事部長）一人おいて木川田東京電力副社長、一人おいて石川鹿島建設常務小田部駐米参事官

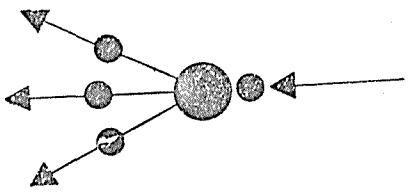
日本大使館レセプション　左から大屋団長、谷駐米大使、シーボルド国務次官補

角野尚徳氏

沢井鉄治氏



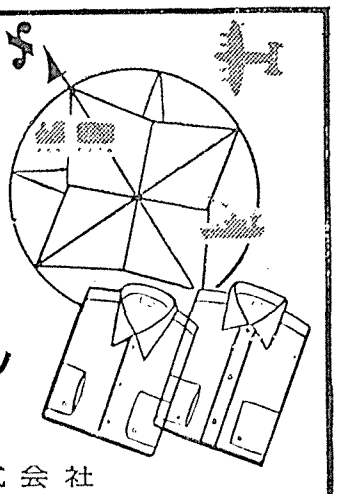
片桐考一氏



長い旅行にも
たつた一枚ですむ

▶洗濯が簡単で乾きが早い　▶糊付けの必要がない
▶アイロンを掛けなくて済む　▶綿の数倍も強い
東洋レーヨンの

ナイロンシャツ



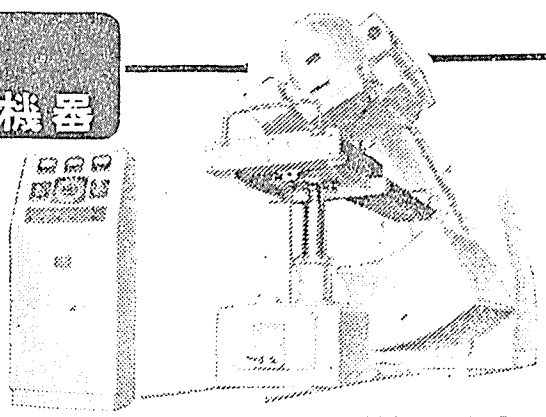
東洋レーヨン株式会社

Toshiba
アイソトープ機器

照射装置　各種
工業用・医学診療用
農業用・理化学実験用

透過写真撮影装置　各種

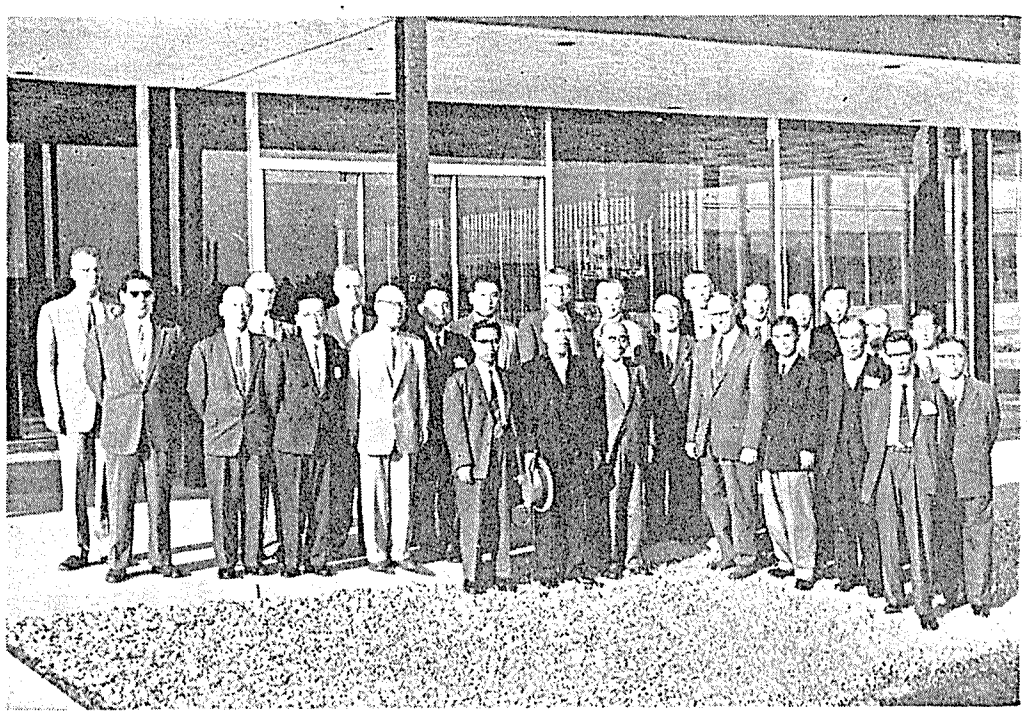
放射線測定器　各種



コバルト60回転照射装置
（RI—102R型）

東京芝浦電気株式会社

祝使節団帰朝

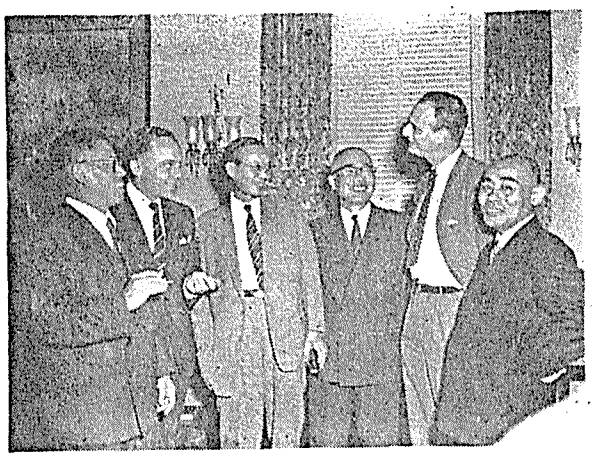


ジェネラルモータース社中央技術研究所正面にて　前列左三人目から阪本、大西、藤田、長尾、栗西、ハウスタッド博士（前原子炉部長1954年来日）竹俣、瀬藤、島村前田、後列左四人目から片桐、石川、井上、丹羽、大屋、松根、柴田、木川田、藤永岩永、久野の各氏

久良知　丑二郎氏

岩　永　　巌氏

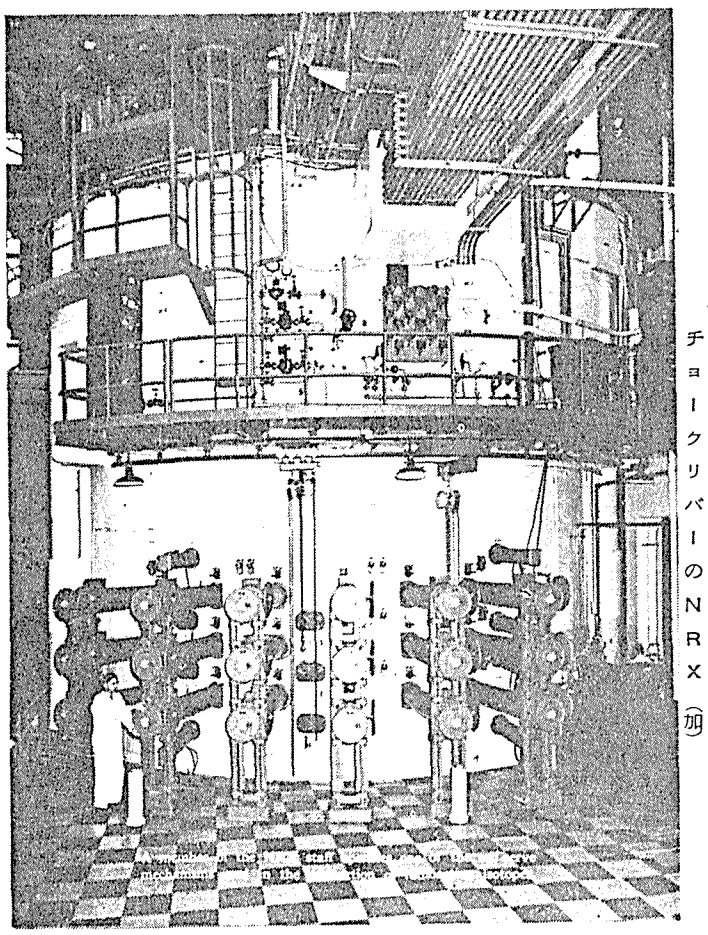
小　林　　中氏



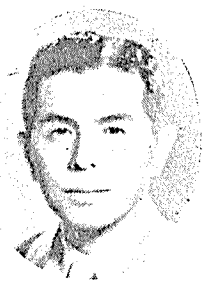
日本大使館レセプション　左から前田富士電機取締役、一人おいて木川田東京電力副社長、岩永東洋レーヨン常務、一人おいて栗西日産化学副社長

米フォーラム幹部と要談（ニューヨーク・米フォーラム事務局）
左から阪本住友電工技術部次長、大屋団長、ロビンス米フォーラム事務局総長、松根産業会議常任理事、島村原子力局政策課長、井上中部電力社長

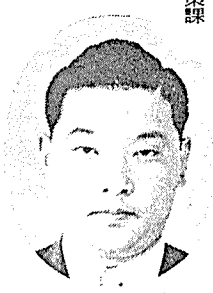
米フォーラム（ニューヨーク）にて説明する大屋団長と一行



チョークリバーのNRX（加）



竹　俣　高　敏氏



石　川　六　郎氏

池　田　正　二氏

島　村　武　久氏

富士電機製造株式會社

社長　和田恒輔

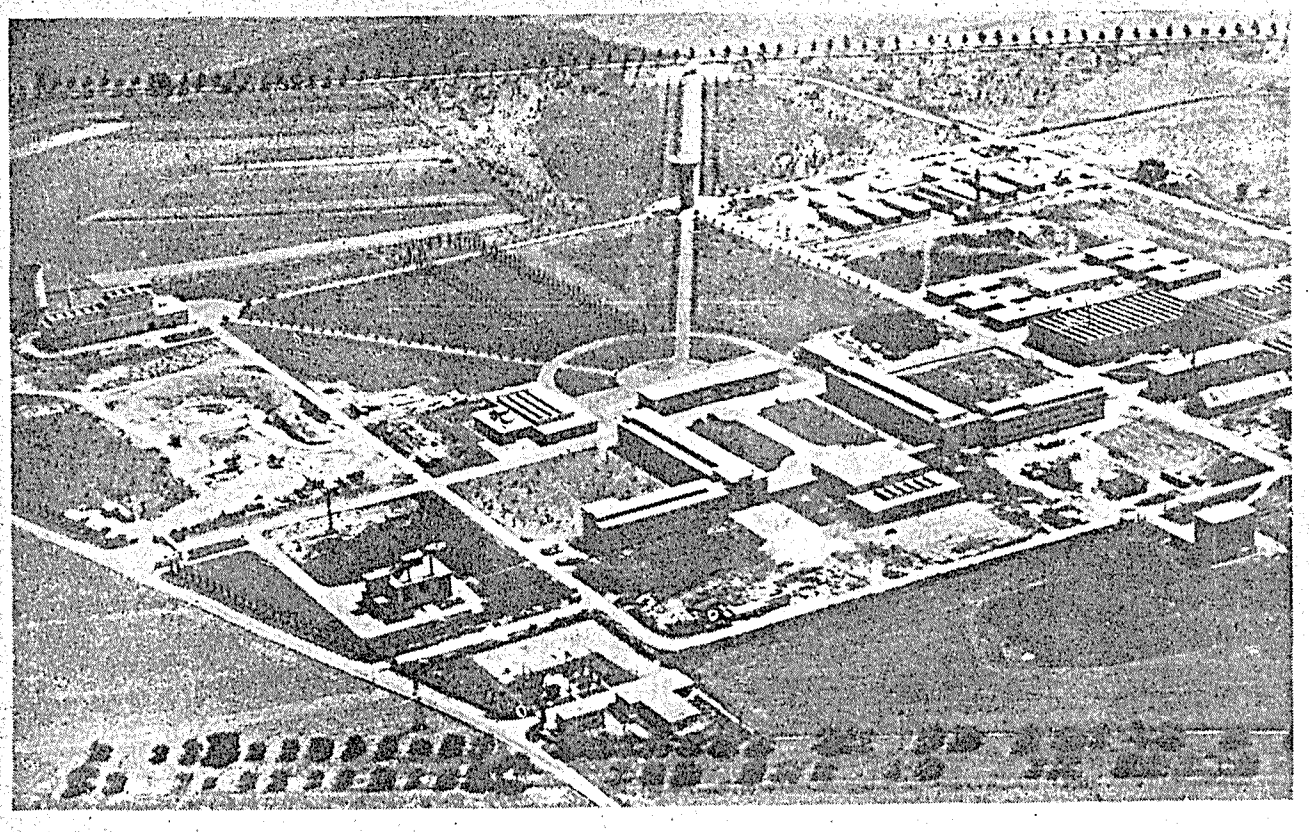
東京都千代田区丸の内二丁目六番地

日立の放射線測定器

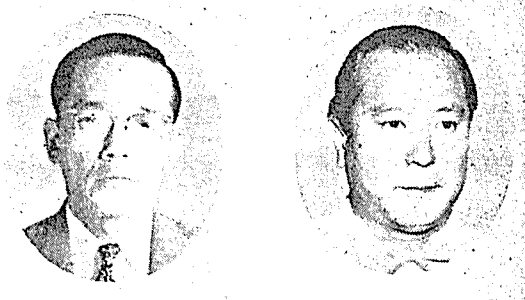
測定器
サーベメーター
シンチレーションカウンター
中性子用カウンター
X線用カウンター
工業用X線液面計
工業用ベータ線厚み計

日立製作所

祝使節団帰朝

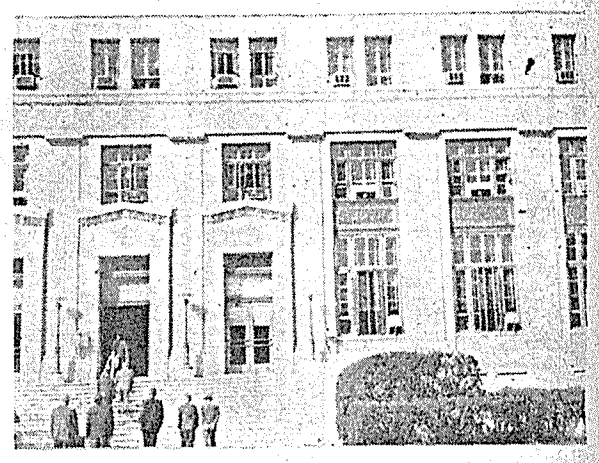


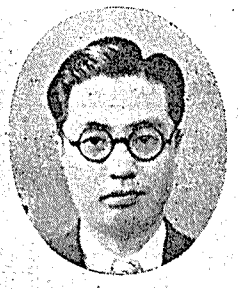
サクレー中央原子力研究所の全景（仏）



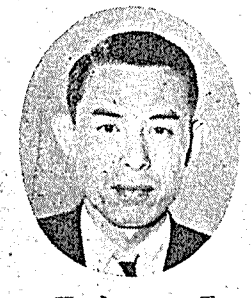
坂本　勇氏　　柴田秀利氏

※原子力委員会を訪問

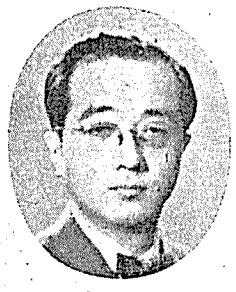




藤田僖正氏



藤永　一氏



水野惣平氏

ブルックヘヴン国立原子力研究所の視察　フォックス博士（右端、本年6月来日）から天然ウラン・石墨炉模型で説明をきく　左から久野新三菱重工技師長、柴田産業会議参与、沢井昭和電工大町工場、岩永東洋レーヨン常務、大屋団長、松根産業会議常任理事、阪本住友電工技術部次長、大野三菱電機長、研究所長、大西日立製作所副社長、木川田東京電力副社長

使節団の顔ぶれ

大屋　敦（団長）日本原子力産業会議副会長
松根　宗一　日本原子力産業会議常任理事（電気事業連合会常務理事）
◇電力業界
井上　五郎　中部電力社長
木川田一隆　東京電力副社長
長尾　節造　中国電力副社長
◇機械工業界
大西　定彦　日立製作所副社長
瀬藤　象二　東京芝浦電気専務取締役
大野　才三　三菱電機研究所長
前田七之進　富士電機製造取締役
久野五十男　新三菱重工業技師長
◇造船業界
丹羽　周夫　三菱造船社長
土光　敏夫　石川島重工業社長
◇鉱山業界
久留島秀三郎　同和鉱業社長
◇化学工業界
栗西　清　日産化学工業副社長
片桐　孝一　旭化成工業副社長
沢井　鉄治　昭和電工大町工場長
久良知丑二郎　清水建設取締役
◇銀行業界
小林　中　日本開発銀行総裁
竹俣　高敏　日本開発銀行理事
◇顧問
島村　武久　原子力局政策課長
池田　正三　日本機械学会会長
柴田　秀利
日本原子力産業会議参与
◇幹事
阪本　勇　住友電気工業技術部次長
水野　惣平　日本開発銀行主査
藤永　一　三菱造船技師
藤田　僖正　日本原子力産業会議事務局員
◇鉄鋼業界
角野　尚徳　八幡製鉄副社長
◇化学繊維工業界
岩永　巌　東洋レーヨン常務取締役
◇建設業界
石川　六郎　鹿島建設常務取締役

内外旅行のお世話を通じて
海外との文化交流にも
役立たせて戴いております
皆様の海外旅行もぜひ….
日本交通公社

優秀な製品を安いコストで
主要製品
銑鉄
鋼塊及び半製品
鋼材
八幡製鐵株式會社
本社　東京都千代田区丸の内1の1（鉄鋼ビル）

祝使節団帰朝